

極秘

大海情陸第四拾八號

露軍近況

(九月二十日大本營)
陸軍幕僚調査

一、一般ノ情況

(一) 滿洲方面

九月十三日露西軍ノ休戰條件協定委員ハ沙河子ニ於テ會見シ休戰條件ヲ定メタリ之ニ由リ九月十六日正午ヨリ滿洲全部ニ於テ戰鬥ヲ中止シ日露西軍第一線ノ中間ヲ離隔地帯ト爲シ西軍ニ關係スルモノハ一切此地帯ニ入ルコトヲ禁シ雙廟子沙河子間ノ道路ヲ以テ西軍ノ共通道路ト爲セリ

右ノ條件協定後第三軍方面ニ敵ノ將校以下八隊スルニ來リ又離隔地帯内ニ敵ノ將校以下現ハレ我ニ會見ヲ求シモ悉ク拒絕セラレタリ第三軍司令官カウリバルス大將ハオデッサ軍管司令官

0828

ニ轉任セリ

寬城子、懷德間及榆樹臺、八面城間、軍路修築竣シリ又公主
嶺、榆樹臺間、榆樹臺、奉化間、奉化、三义河、新停車場間、輕
便鐵道敷設セラレ糧秣運搬ヲ為ス、榆樹臺至ヨリ更ニ西方鄭
家屯方面ニ敷設工事ヲ開始セリ

九月八日敵騎四、五百洞溝附近ヨリ鴨綠江ヲ渡リ一部ハ渭原方向ニ
一部ハ江界方向ニ進ミシカ我林定山守備隊ト小衝突ノ後退却セリ
我測圖班員二、三名十日江界東北方ニ於テ此敵騎ニ遭ヒ害セラレ

(二) 北韓方面

九月十六日彼我休戰條件協定委員會見ヒシモ敵ハ鴨綠江左岸
ニ撤退ノ件ニ付キ決スル所ナク其夜露軍ヨリ西軍ノ中間線ヲ定メ
境界ト為シ休戰センコトヲ申込メリ其後未ダ協定シタルノ報ニ
接セス但シ事實ハ既ニ彼我ノ間ニ休戰ヲ行ヒ在リ

0829

敵、第二師団ニ属スル第四十一聯隊ハ八月中旬以後逐次凶憚江ヲ
渡リ南下セリ又目下北關ニ在ル敵、火炮ハ五十一門ニ達スト云フ
凶憚江ノ軍橋ハ七月下旬流失後架設セシモ九月一日大雨ニテ流失
セラシ今尚架設セラレスト云フ

(三) 欧露ニ於ケル情况

バル地方ニ騷亂起リ依然繼續シアリ
九月十八日露都發電ニヨレハビアリストク及同郡ニ戒嚴令布
カレタリト云フ

二、増援隊発著

本旬戦地到著ニ関シ左ノ情報アリ

九月四日 寛城子通過 砲兵第二十七旅団ノ三、混合歩兵二列車等

同五日 同 歩兵第十九聯隊ノ一、第二十聯隊ノ一隊號明一列車

同六日 同 歩兵第十九聯隊ノ一、第二十聯隊ノ二列車等

0830

同 七日 同
混合兵卒等

同 八日 同
歩兵第十九聯隊、第二聯隊、隊号不明、

一、混合兵卒一列車等

同 九日 同
砲兵第二十七旅団彈藥縦列一、同第二十八旅

団、彈藥縦列一、混合兵卒一列車等

同 十日 同
工兵第三大隊三、砲兵第二十八旅団、彈藥縦列

二、混合兵卒一、隊号不明、一列車等

同 十一日 同
東部西伯利輕氣球第三大隊三、機關砲一、

混合兵若干列車

一日到著ノ列車數七乃至十一列車(糧秣、木材、新炭、病院列車、右

三田谷セリ)

目下歐露ヨリ輸送中ニ在ルモノ左ノ如シ

一、第十三軍団(第一師団砲兵第一、第二師団砲兵第一、
第一師団工兵大隊) 後尾先第三師団ノ輸送依然繼續シ、
アリ、先頭ハ八月二十日ヨリ通過

0831

二、東部西伯利狙撃砲兵第十彈藥縱列 八月二十日バシガ通過

三、橋樑兵第五大隊

四、工兵第十四大隊

五、バルチック及黒海艦隊ノ元水共千百人 徵戒、為ノ極東ニ派遣セラシ九月六日莫斯科ヲ通過セリ

極東派遣ノ為ノ動員トシテ第一軍団ハ依然キエラニ在リ其一部

ハ暴徒鎮壓ノ為ノ近日バシガ地方ニ派遣トラル竹舌ナリト云フ

鐵楯速射砲三中隊ハ八月中旬出發トシ故今ヤ將ニ到着シツルナラ

以上ノ諸情況ニ依リ別紙露軍配置一覽圖ヲ調製セリ

三、撤兵ニ関スル情報

極東ニ派遣トシ豫備兵ノ未タ指定地ニ到着セサルモノハ途中ヨリ

欧露ニ還送セラルト云フ

媾和ノ結果野戰軍及其後方並ニ北海州ニアル病院及衛生縱列ノ

八月十七日乃至二十一日サマラ 通過

0832

閉鎖ヲ始メ

九月十四日ヨリ西伯利鉄道ノ普通列車一週間三回発ノ分ヲ停止ス
ル等ノ命令アリシカ媾和ノ結果右命令ノ実行ヲ見合ヌコト、為レリ

3

明治三十八年九月二十三日

大本營海軍幕僚

0833

分割撮影ターゲット

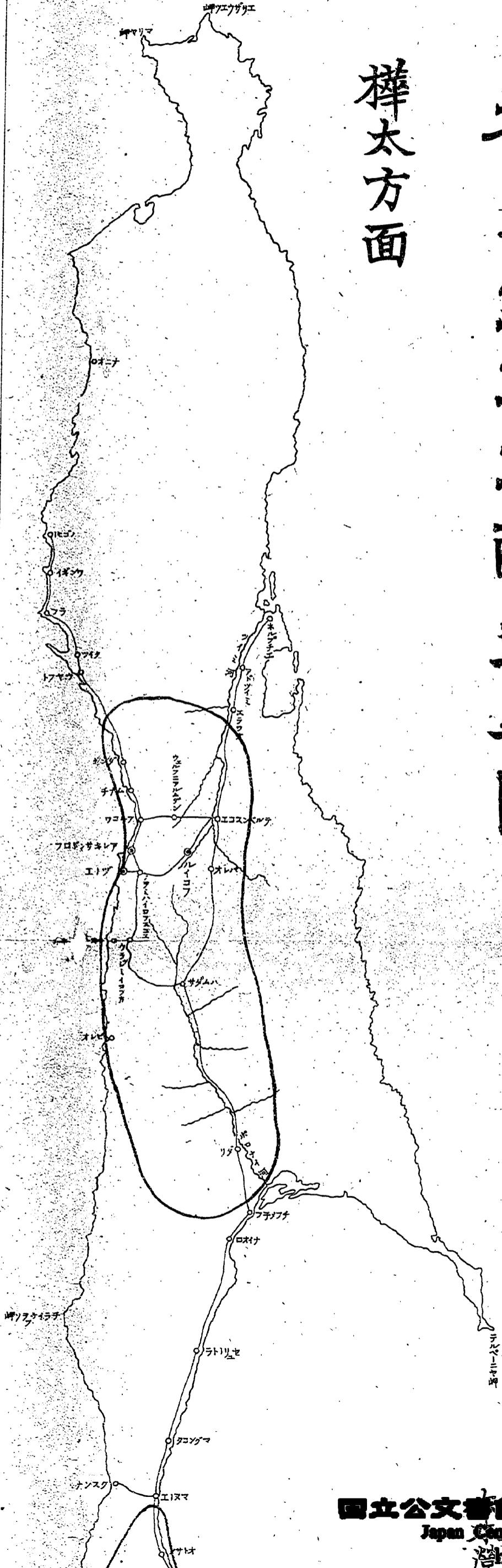
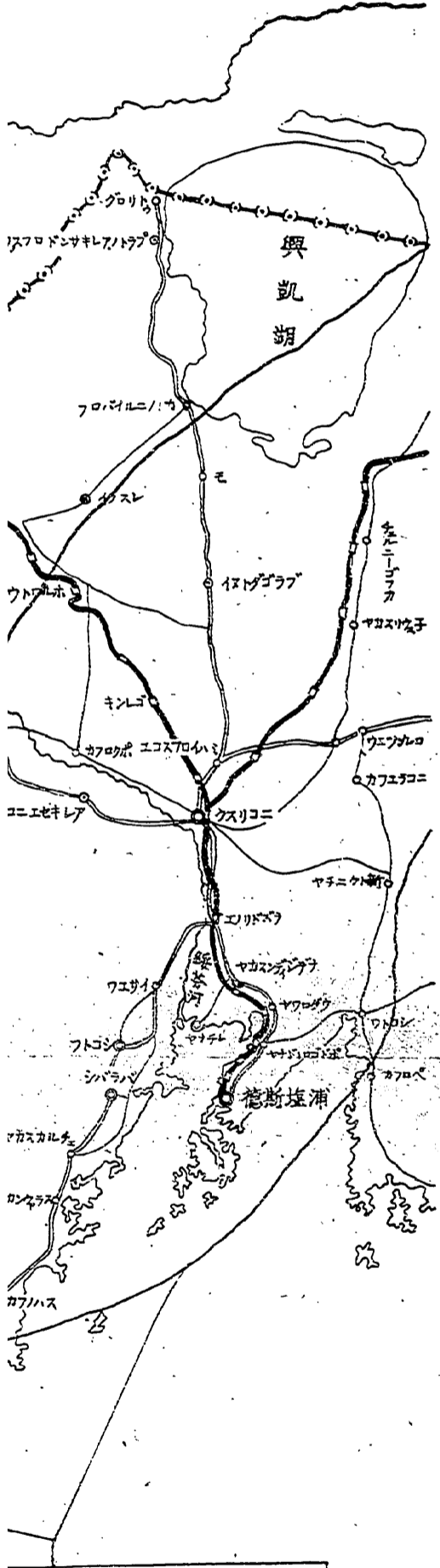
分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="662 660 1109 1086"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2								
3	4								
5	6								
7	8								
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め								
上記のとおり分割撮影した事を証明する。									

秘

極東露軍之配置畧圖

樺太方面

0834
0835
0836
0837
0838
0839
0840
0841



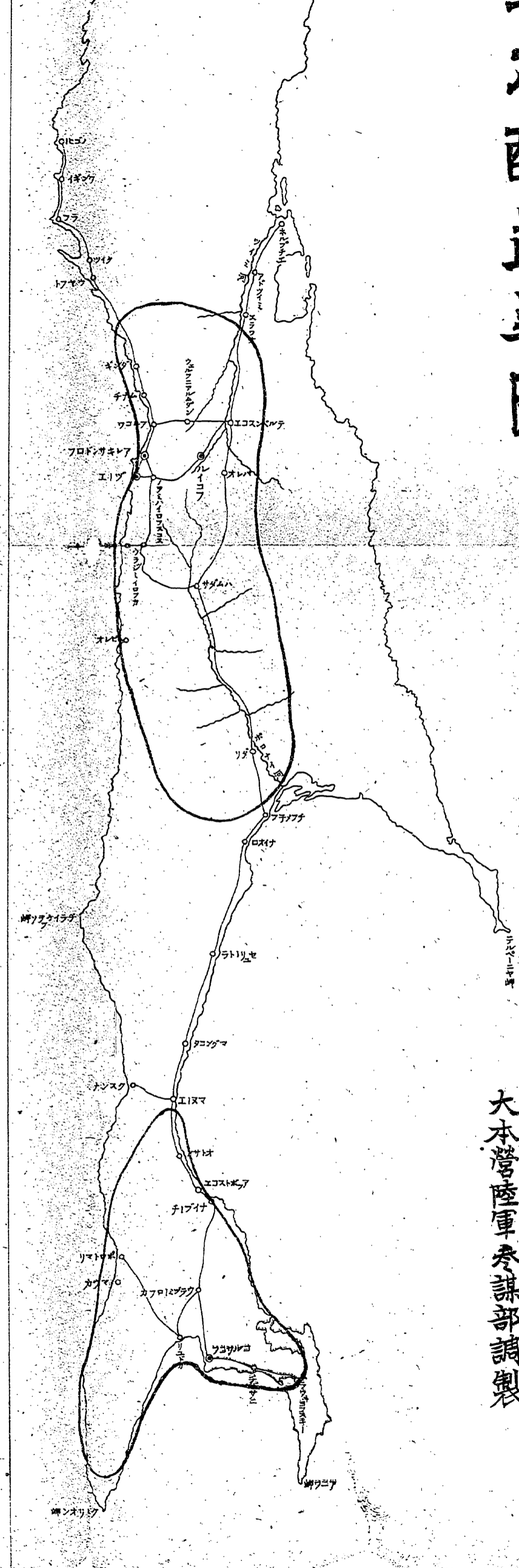
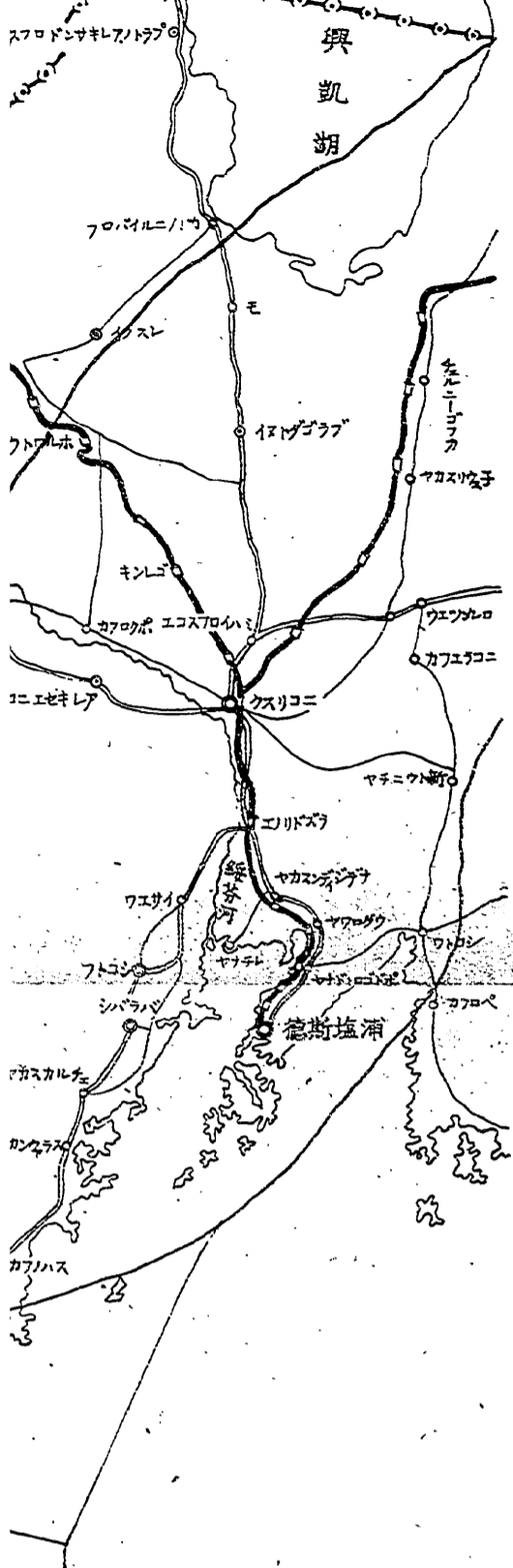
歩砲兵

計	ハバロフスク歩兵聯隊	璋春守備歩兵聯隊	ホシノト守備歩兵聯隊	全 第十師団	全 第八師団	東部西伯利亞陸軍第三師団
五十七	四	二	三	十六	十六	十六
(十)				(一)	(一)	砲

大正十一年

大正配置略圖

大正陸軍編制略圖



明治三十八年九月二十日

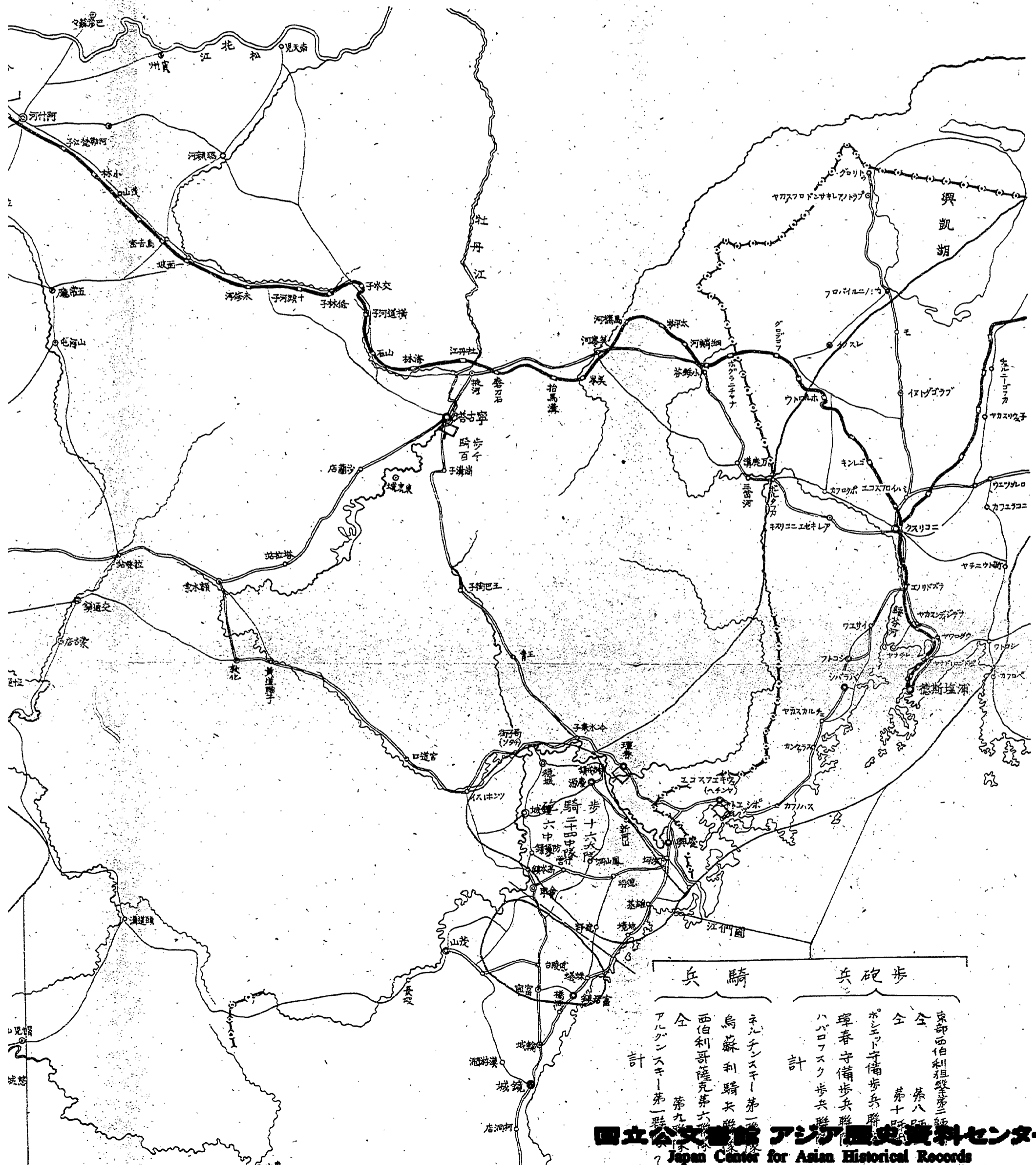
大本營陸軍參謀部調製

歩砲兵

計	五十七	(十六)	要
ハバロフスク歩兵聯隊	四		要塞工兵第一第二中隊 (二中隊)
琿春守備歩兵聯隊	二		琿春要塞砲兵 一隊
ホシムト守備歩兵聯隊	三		ホシムト要塞砲兵 一隊
全 第十師團	十六	(四)	海軍陸戦隊第一第二中隊 (二中隊)
全 第八師團	十六	(六)	
東部白根垣根警備師團	十六	(七)	

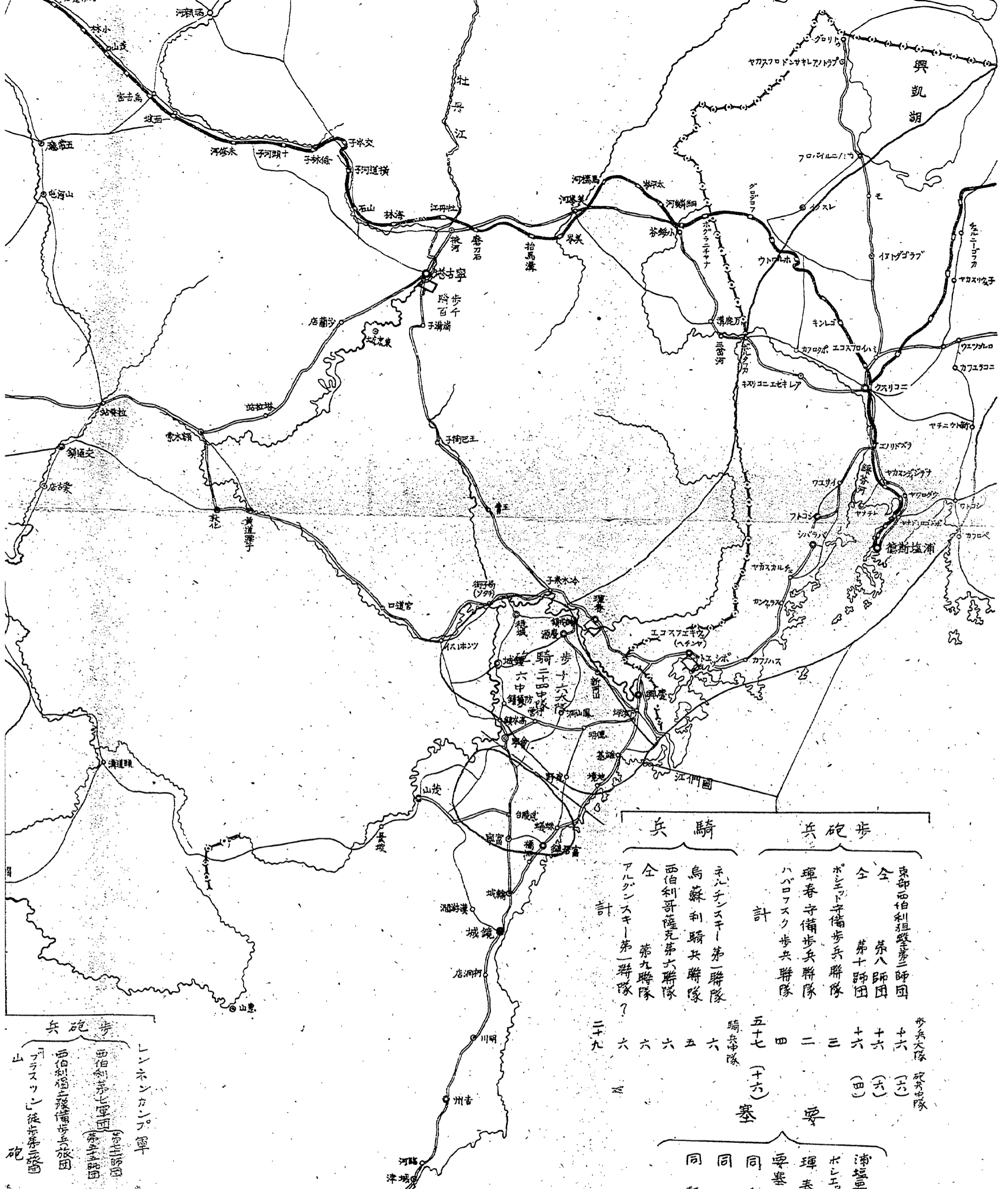
歩兵大隊	砲兵大隊
要	

鳥蘇利及滿江



歩砲兵 騎兵

- | 歩砲兵 | 騎兵 |
|--|--|
| 全 京部西伯利亞軍第一師
全 第八師
全 第十師
全 第十一師
全 第十二師
全 第十三師
全 第十四師
全 第十五師
全 第十六師
全 第十七師
全 第十八師
全 第十九師
全 第二十師
全 第二十一師
全 第二十二師
全 第二十三師
全 第二十四師
全 第二十五師
全 第二十六師
全 第二十七師
全 第二十八師
全 第二十九師
全 第三十師
全 第三十一師
全 第三十二師
全 第三十三師
全 第三十四師
全 第三十五師
全 第三十六師
全 第三十七師
全 第三十八師
全 第三十九師
全 第四十師
全 第四十一師
全 第四十二師
全 第四十三師
全 第四十四師
全 第四十五師
全 第四十六師
全 第四十七師
全 第四十八師
全 第四十九師
全 第五十師
全 第五十一師
全 第五十二師
全 第五十三師
全 第五十四師
全 第五十五師
全 第五十六師
全 第五十七師
全 第五十八師
全 第五十九師
全 第六十師
全 第六十一師
全 第六十二師
全 第六十三師
全 第六十四師
全 第六十五師
全 第六十六師
全 第六十七師
全 第六十八師
全 第六十九師
全 第七十師
全 第七十一師
全 第七十二師
全 第七十三師
全 第七十四師
全 第七十五師
全 第七十六師
全 第七十七師
全 第七十八師
全 第七十九師
全 第八十師
全 第八十一師
全 第八十二師
全 第八十三師
全 第八十四師
全 第八十五師
全 第八十六師
全 第八十七師
全 第八十八師
全 第八十九師
全 第九十師
全 第九十一師
全 第九十二師
全 第九十三師
全 第九十四師
全 第九十五師
全 第九十六師
全 第九十七師
全 第九十八師
全 第九十九師
全 第一百師 | 全 第一騎兵旅團
全 第二騎兵旅團
全 第三騎兵旅團
全 第四騎兵旅團
全 第五騎兵旅團
全 第六騎兵旅團
全 第七騎兵旅團
全 第八騎兵旅團
全 第九騎兵旅團
全 第十騎兵旅團
全 第十一騎兵旅團
全 第十二騎兵旅團
全 第十三騎兵旅團
全 第十四騎兵旅團
全 第十五騎兵旅團
全 第十六騎兵旅團
全 第十七騎兵旅團
全 第十八騎兵旅團
全 第十九騎兵旅團
全 第二十騎兵旅團
全 第二十一騎兵旅團
全 第二十二騎兵旅團
全 第二十三騎兵旅團
全 第二十四騎兵旅團
全 第二十五騎兵旅團
全 第二十六騎兵旅團
全 第二十七騎兵旅團
全 第二十八騎兵旅團
全 第二十九騎兵旅團
全 第三十騎兵旅團
全 第三十一騎兵旅團
全 第三十二騎兵旅團
全 第三十三騎兵旅團
全 第三十四騎兵旅團
全 第三十五騎兵旅團
全 第三十六騎兵旅團
全 第三十七騎兵旅團
全 第三十八騎兵旅團
全 第三十九騎兵旅團
全 第四十騎兵旅團
全 第四十一騎兵旅團
全 第四十二騎兵旅團
全 第四十三騎兵旅團
全 第四十四騎兵旅團
全 第四十五騎兵旅團
全 第四十六騎兵旅團
全 第四十七騎兵旅團
全 第四十八騎兵旅團
全 第四十九騎兵旅團
全 第五十騎兵旅團
全 第五十一騎兵旅團
全 第五十二騎兵旅團
全 第五十三騎兵旅團
全 第五十四騎兵旅團
全 第五十五騎兵旅團
全 第五十六騎兵旅團
全 第五十七騎兵旅團
全 第五十八騎兵旅團
全 第五十九騎兵旅團
全 第六十騎兵旅團
全 第六十一騎兵旅團
全 第六十二騎兵旅團
全 第六十三騎兵旅團
全 第六十四騎兵旅團
全 第六十五騎兵旅團
全 第六十六騎兵旅團
全 第六十七騎兵旅團
全 第六十八騎兵旅團
全 第六十九騎兵旅團
全 第七十騎兵旅團
全 第七十一騎兵旅團
全 第七十二騎兵旅團
全 第七十三騎兵旅團
全 第七十四騎兵旅團
全 第七十五騎兵旅團
全 第七十六騎兵旅團
全 第七十七騎兵旅團
全 第七十八騎兵旅團
全 第七十九騎兵旅團
全 第八十騎兵旅團
全 第八十一騎兵旅團
全 第八十二騎兵旅團
全 第八十三騎兵旅團
全 第八十四騎兵旅團
全 第八十五騎兵旅團
全 第八十六騎兵旅團
全 第八十七騎兵旅團
全 第八十八騎兵旅團
全 第八十九騎兵旅團
全 第九十騎兵旅團
全 第九十一騎兵旅團
全 第九十二騎兵旅團
全 第九十三騎兵旅團
全 第九十四騎兵旅團
全 第九十五騎兵旅團
全 第九十六騎兵旅團
全 第九十七騎兵旅團
全 第九十八騎兵旅團
全 第九十九騎兵旅團
全 第一百騎兵旅團 |

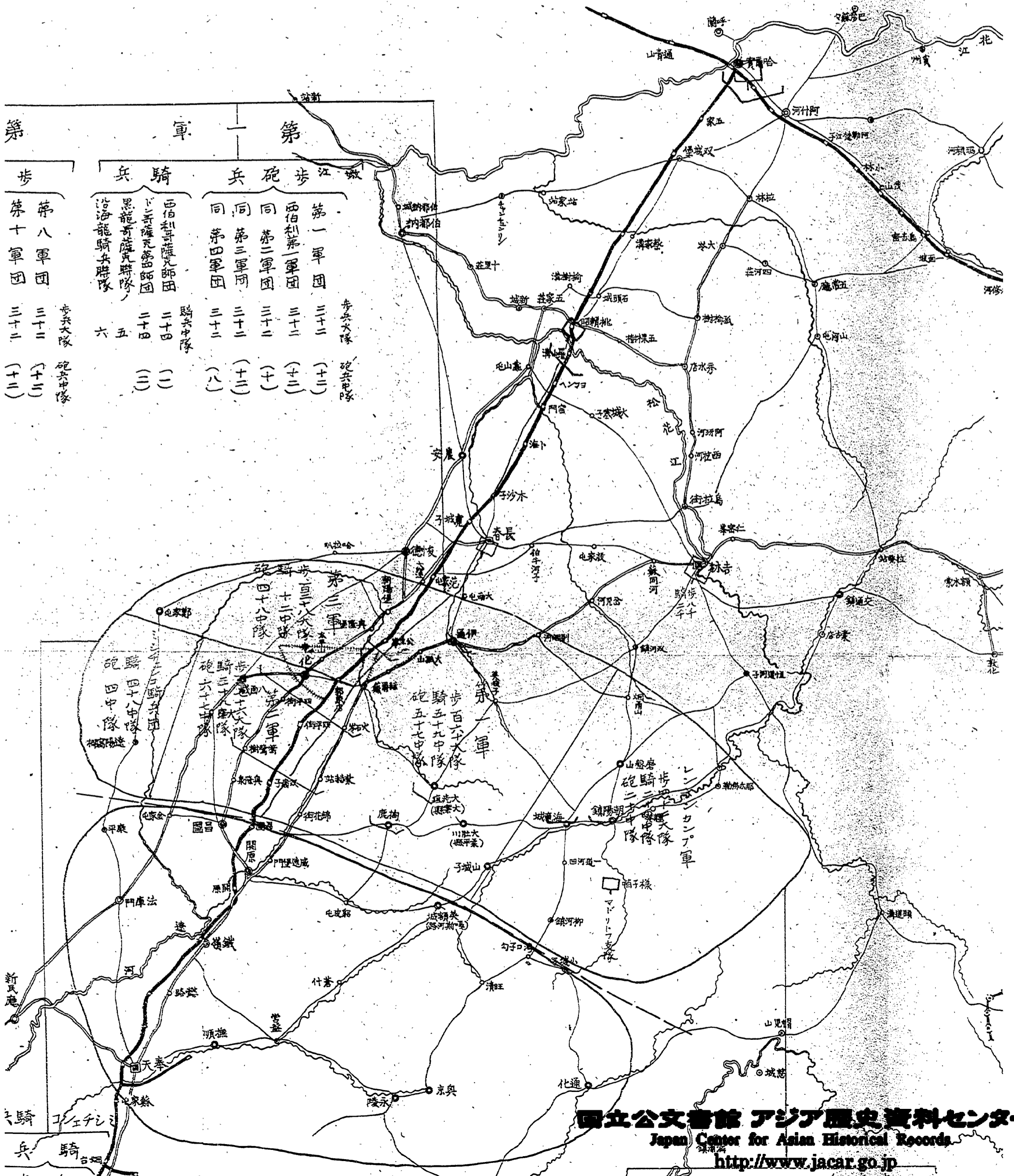


兵 騎		兵 砲 歩	
全	アルゲンスキー第一聯隊	全	東部西伯利亞第三師團
計	二十九	全	第八師團
		全	第十師團
		計	ホシゴト守備步兵聯隊
			輝春守備步兵聯隊
			ハバロフスク步兵聯隊
			騎兵隊
			歩兵大隊
			砲兵中隊

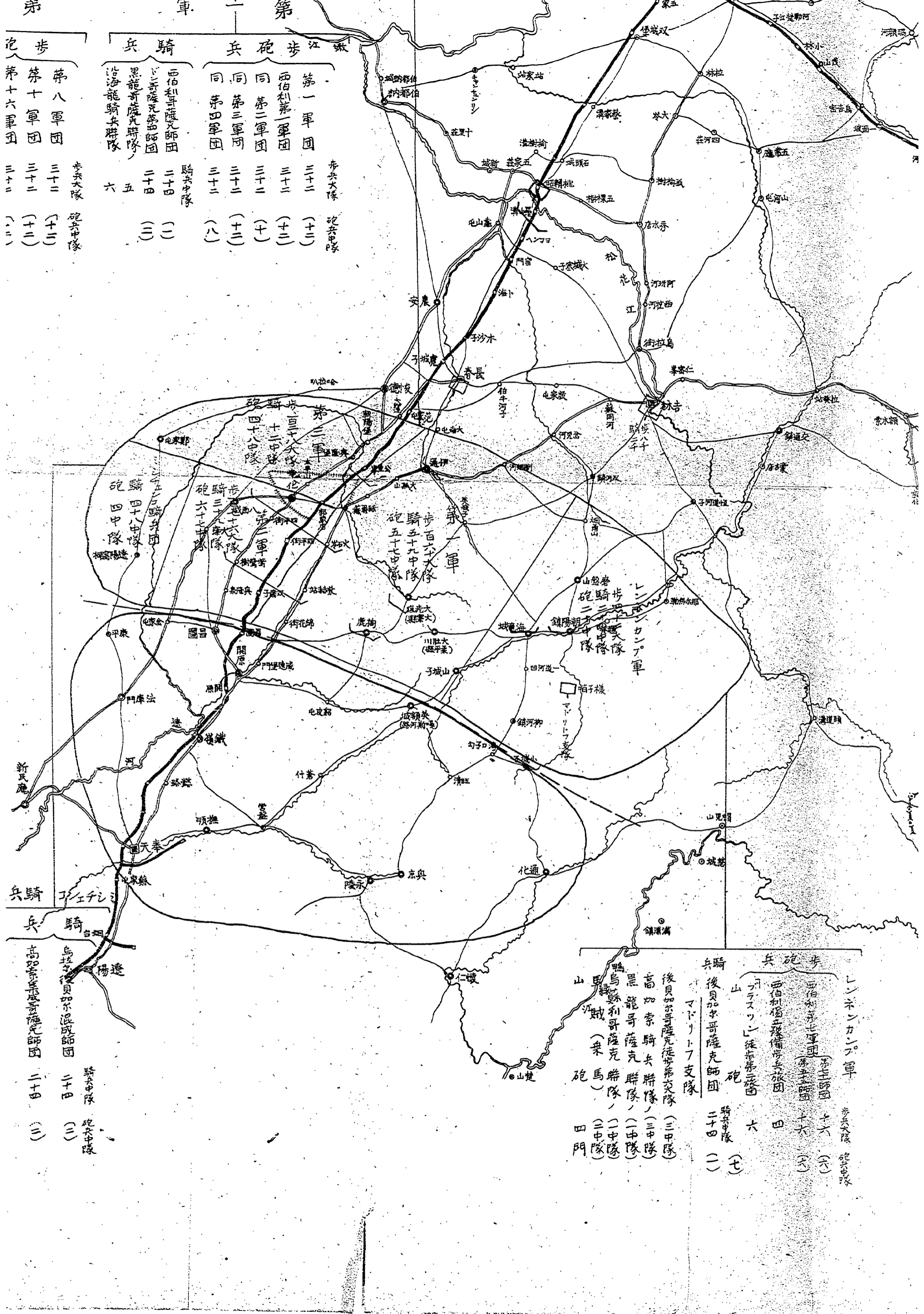
兵 砲 歩	
全	フィンランド軍
計	歩兵大隊
	砲兵中隊
	騎兵隊

要 塞	
同	浦塩要塞第一至第五大隊
同	ホシゴト要塞砲兵
同	輝春要塞砲兵
同	要塞工兵第一至第二中隊
同	水雷第一至第二中隊
同	電信
同	輕氣球第一至第二中隊

及滿洲方面



第一軍		第二軍		第三軍	
歩	騎	歩	騎	歩	騎
第一軍團	西伯利亞第一軍團	同	同	同	同
第三十二	第三十二	第三十二	第三十二	第三十二	第三十二
(十二)	(十二)	(十二)	(十二)	(十二)	(十二)
步兵大隊	騎兵中隊	步兵大隊	騎兵中隊	步兵大隊	騎兵中隊
砲兵中隊		砲兵中隊		砲兵中隊	



砲 歩
 第十六軍団 三十二
 第八軍団 三十二
 第十軍団 三十二
 歩兵大隊 砲兵中隊

兵 騎
 西伯利亞陸軍師団 二十四
 黒龍騎兵聯隊 五
 沿海騎兵聯隊 六
 騎兵中隊

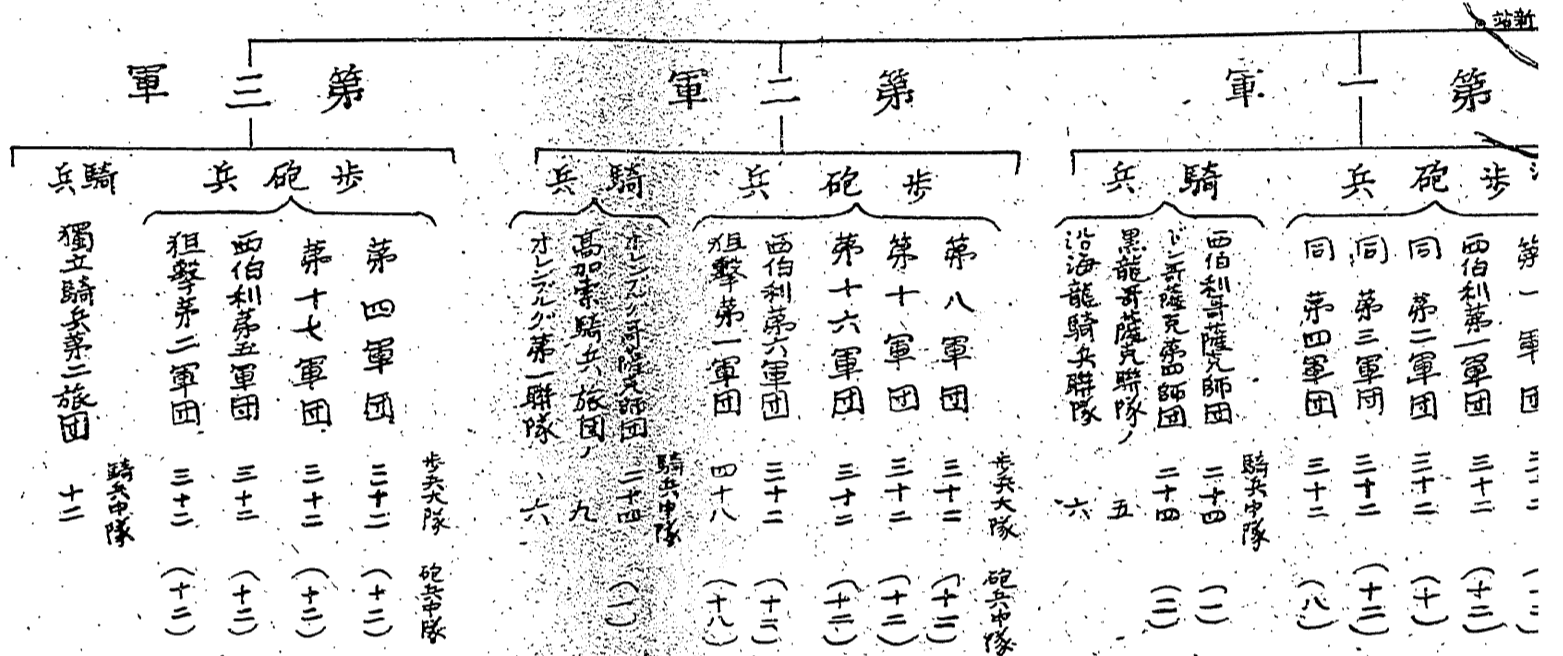
兵 砲 歩
 第一軍団 三十二
 西伯利亞第一軍団 三十二
 同 第二軍団 三十二
 同 第三軍団 三十二
 同 第四軍団 三十二
 砲兵中隊

兵 騎
 高加索陸軍師団 二十四
 烏拉爾貝爾捷師団 二十四
 騎兵中隊 砲兵中隊

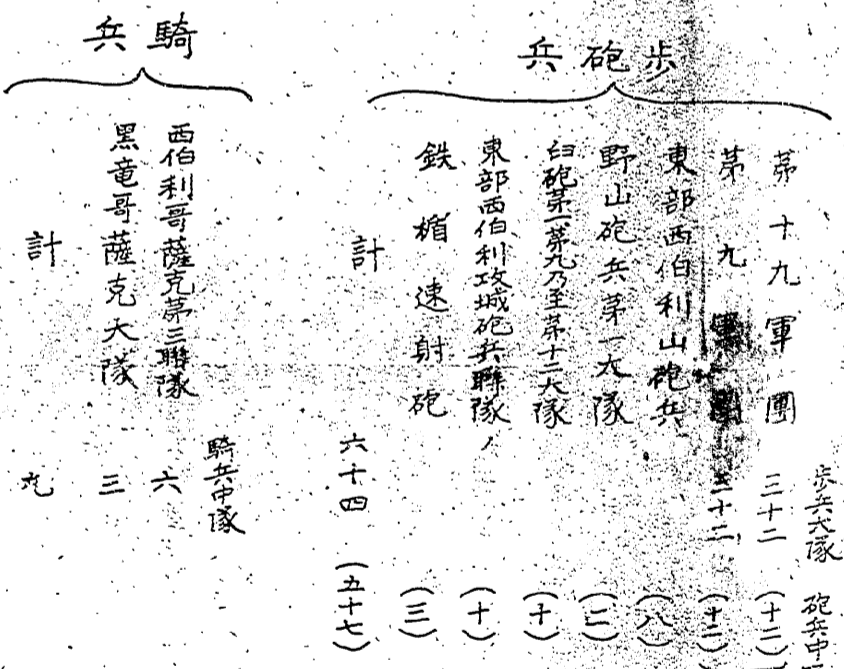
砲 騎 歩
 後貝加爾哥薩克師団 二十四
 マドリード支隊
 後貝加爾哥薩克師団 (三中隊)
 高加索騎兵聯隊 (三中隊)
 黒龍騎兵聯隊 (二中隊)
 馬賊 (乘馬) (二中隊)
 砲 四門

砲 騎 歩
 西伯利亞陸軍師団 (第三師団) 十六
 西伯利亞陸軍師団 (第四師団) 十六
 フラソフ 砲 六
 砲 騎 歩
 砲 七
 騎 七
 砲 七

シベリア軍
 歩兵大隊 砲兵中隊

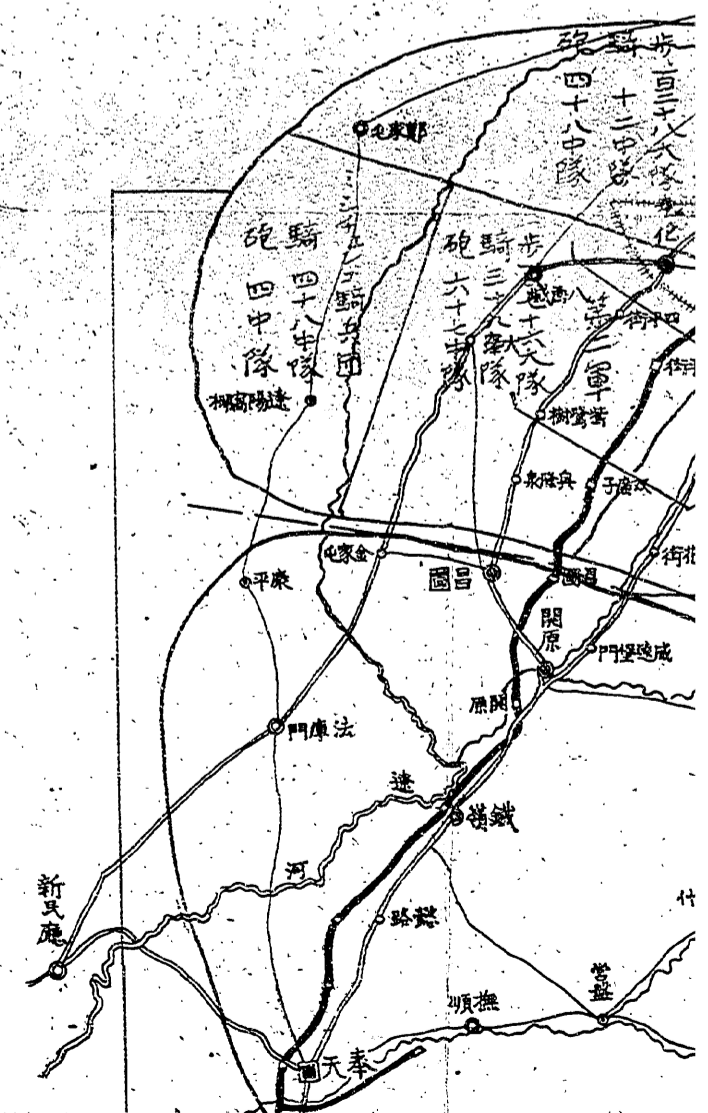


所 屬 不 明



兵 力 計

滿洲方面			烏蘇利方面 (除隊部要)		
步兵	騎兵	砲兵	步兵	騎兵	砲兵
五十七大隊	二十九中隊	十六中隊	五十七大隊	二十九中隊	十六中隊
二百四十八中隊	百九十二中隊	五百七十六大隊			



考 備

一、滿洲方面ニ於テハ步兵一大隊ノ銃數ヲ平均約七百新米ノ第九軍団ノモノヲ九百ト計算ス(騎兵六百五十騎ト計算
 烏蘇利方面ニ在リテハ步兵一大隊ヲ九百銃ト計算ス
 二、本表砲數ノ外哈爾濱ニ重砲百二十門アリ(補充砲數不明ナルニ前旬ノモノニ六中隊分ヲ加フ)
 三、本圖外政露ヨリ増加スヘキ左ノ部隊アリ
 第十三軍團 步兵三十三大隊 砲十二中隊

第三軍

第二軍

第一軍

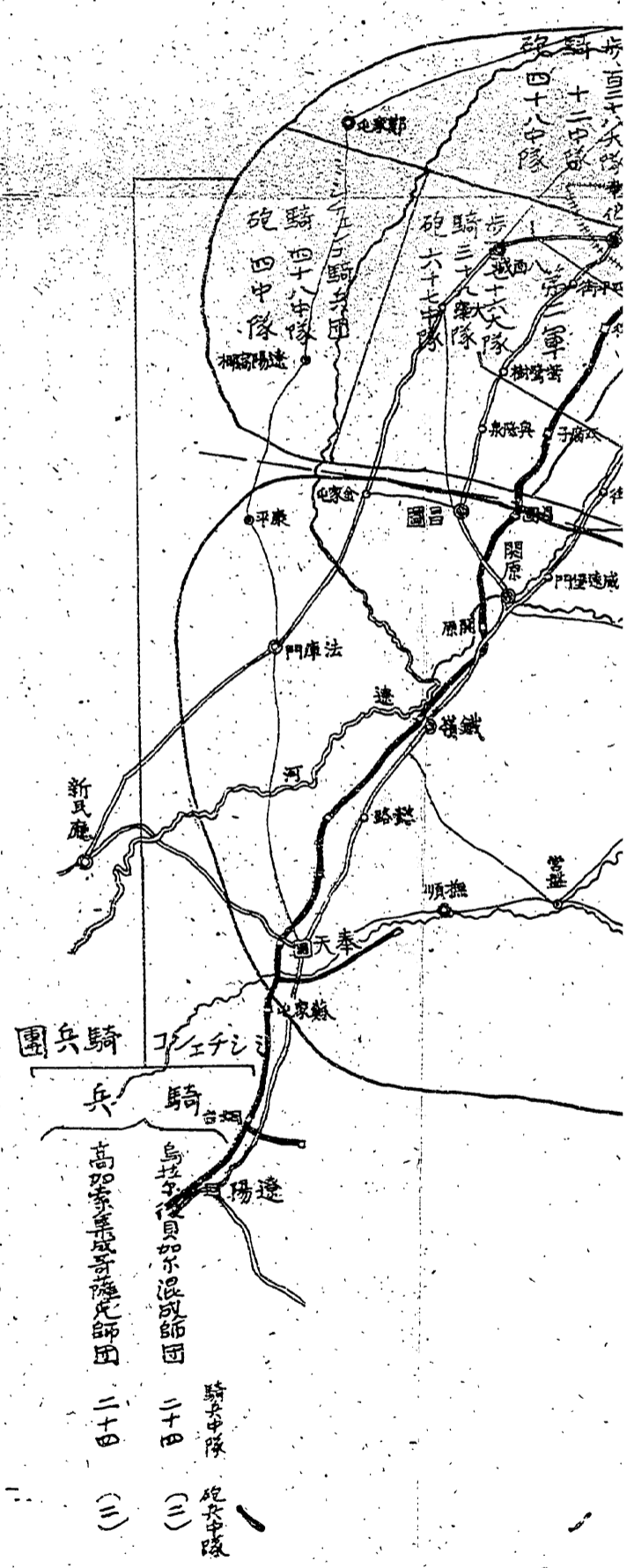
第三軍		第二軍		第一軍	
兵騎	兵砲歩	兵騎	兵砲歩	兵騎	兵砲歩
獨立騎兵第三旅団 十二	第四軍団 三十二 (十三) 第十七軍団 三十二 (十三) 西伯利亞第五軍団 三十二 (十三) 狙撃第二軍団 三十二 (十三)	高加索騎兵旅団 九 オレクセル第一聯隊 六	第八軍団 三十二 (十三) 第十軍団 三十二 (十三) 第十六軍団 三十二 (十三) 西伯利亞第六軍団 三十二 (十三) 狙撃第一軍団 四十八 (十八)	西伯利亞陸軍師団 二十四 第二師団 二十四 黑龍江薩克聯隊 五 沿海龍騎兵聯隊 六	西伯利亞第一軍団 三十二 (十三) 同 第二軍団 三十二 (十三) 同 第三軍団 三十二 (十三) 同 第四軍団 三十二 (十三)

所屬不明

兵騎	兵砲歩
西伯利亞薩克第三聯隊 六 黑龍江薩克大隊 三	第十九軍團 三十二 (十三) 第九軍團 三十二 (十三) 東部西伯利亞山砲兵 三十二 (十三) 野山砲兵第一大隊 三十二 (十三) 白砲兵第九至第十三大隊 三十二 (十三) 東部西伯利亞砲兵聯隊 三十二 (十三) 鐵楯速射砲 三十二 (十三)

兵力計

滿洲方面			高麗蘇利方面 (除部隊要)		
砲兵	騎兵	歩兵	砲兵	騎兵	歩兵
二百四十八中隊	百九十二中隊	五百七十六大隊	十六中隊	二十九中隊	五十七大隊
千七百九十六門	二萬八千八百騎	四十一萬千八百銃	百二十八門	四千三百五十騎	五萬千三百銃



備考

一、滿洲方面ニ於テハ歩兵一大隊ノ銃數ヲ平均約七百新來ノ第十九第九軍団ノモノヲ九百ト計算ス(騎兵六百五十騎ト計算ス)
 二、本表砲數ノ外ハ爾賓ニ重砲百二十門アリ(補充砲數不明ナルモ前旬ノモノニ六中隊分ヲ加フ)
 三、本圖外政露ヨリ增加スヘキ左ノ部隊アリ

第十三軍團

步三十三大隊 砲十二中隊



大海情陸第四拾九號

露軍ノ近況

(九月三十日大本營
陸軍幕僚調査)

一 一般ノ情況

(一) 滿洲方面

離隔地帯内ニ僅少ノ敵兵進入ニ或ハ馬賊横行スルノ外異狀ナシ

此路鳥樹東北方黑咀子廟子溝間十五清里ノ鉄道ハ九月十四五日

頃ヨリ撤去ヲ始メ軌鉄枕木ヲ北方ニ運去セリ且下列車ハ廟子溝ニ

運轉シアリ

オデツサ軍管司令官ニ任セラレタルカウリバルス大將舊第二軍ハ司令官ハ

九月二十二日哈尔賓到著續テ露都ニ向フ

(二) 北韓方面

九月二十五日沙五峙ニ於テ彼我休戦協定委員再ヒ會見セシモ埒

界方線ニ関シ意見衝突シ未タ協定ニ至ラス

東部西伯利祖製歩兵第八聯隊ハアメリカ湾ニコトワ間ニ駐在
シ同第四一聯隊及ホリエット聯隊ノ約四百ハ八月中旬ヨリ九月三日
リ廻門江ヲ渡リ南下セリ此外南下セシ野山砲ハ計九個中隊ナリト云フ
九月十一日頃第十九軍団第十七師団ノ第六十六聯隊ハ海路ホリエット
ニ上陸シ又同第六十五聯隊ハ目下ノキーエラスクニ在リ
慶興附近軍橋ハ九月十三日架設ヲ畢セリ

(三) 欧露ニ於ケル情況

高加索騷亂鎮壓ノ為メ第二十一軍団ノ一部派遣セラレ陸軍省ハオレツ
州ニ於テ汽船四隻ヲ傭ハリ九月十九日歩兵一師団砲十八門一砲ニ千五百
三千砲八門
オレツサニテ球船バツームニ向ハリト云フ

二、 増援隊発着
媾和全權委員ツギテハ九月二十八日朝露都ニ歸レリ

本自戰地到著二關之得之情報左ノ如シ

九月十四日寬城子通過

第十七師團ノ若干一、混合兵卒一、輕氣球大隊一、其他十六列車

同 十五日 同

龍騎兵第二十九聯隊ト騎兵一、混合兵卒一、其他八列車

同 十六日 同

歐路狙擊第七聯隊及第三十八旅團一、兵卒十三、第十七大隊及輕氣球第三大隊一、隊号不明一、混合兵卒一、其他三列車

同 十七日 同

砲兵第二十五旅團若干一、混合騎兵馬匹一、其他四列車

同 十八日 同

第四十四師團、五百第四師團、三百一、混合兵一、其他六列車

同 十九日 同

混合兵一、其他六列車
隊号不明一、砲兵第二十三、第二十五旅團

同 二十日 同

人各三百、東部西伯利担數千步兵第一、第二、第三聯隊、四百、其他四列車

同 二十日 同

混合兵若干、自働車等七列車

右に依りハ哈尔賓ヨリ南下ノ兵ハ到著部隊ノ遲延セシモノ若クハ若干ノ補充兵ニシテ大部隊ヲ為スモノナレ第十三軍団ノ大部ハ既ニ戦地到著ノ頃ナルモ多分休戰條約ノ結果哈尔賓ニ停止シ在ルナラン
第十三軍団第一師団參謀長ハ九月四日オヒ停車場ヨリ歐洲ニ通信
ヒリト即チ二十二日頃ニハ哈尔賓ニ到著スルノ距離ニ在リ

歐露ヨリ新々ニ發送ヒシ部隊ナシ

以上諸情報ニ依リ露軍配置一覽圖ヲ調製ヒリ尚ホ昨年十二月ヨリ本年九月迄歐露軍隊ノ到著兵數ヲ參考為メ別紙トシテ掲ク

三、新動員編成

本旬得タル情報左ノ如シ

0845

一、八月中旬發令、各地動員ハ完結セリ

二、東部西伯利担數歩兵第三十七乃至第四十一聯隊ニ軍旗ヲ

授與セラレタリ

三、極東派遣ノ無線電信通信所ハ此頃試驗ヲ畢リタルモ出發
セシメラレス

四、海軍擴張義捐金ノ精算ニ関スル帳簿ノ寫ニ依レハ、

エンゴ騎兵軍團ハ第二軍ニ屬スルカ如シ外ニ同軍ニグレコフ騎

兵支隊屬セリ

五、談判結了ノ前日ニ施行ノ馬匹徵發ハ批准交換迄キニ在ルカ故ニ

馬匹検査ニ亦及更セラレタリ

四、撤兵ニ関スル情報

傷病人及衛生設備ヲ第一ニ戰地ヨリ還送セシカ為メトレポフ中將

前滿洲軍ハ哈尔賓ニ到着セリ
衛生官

極東ニ向ケ輸送中ノ豫備兵次露國境ニテ下車セシメ批准交換後
還送ヲ始ムル筈ナリト云フ

九月十四日アンドレー、ウラヂミロウチキ太公島村夫人、衛生縦列閉鎖
セリ

戦地赤十字社、閉鎖ヲ始メチエルニゴフ、コストロマノ地方病院ハ既

ニ撤去ス赤十字全部ハ十一月中旬撤去ヲ終ル筈ト

モスコイ衛生団隊ハ九月十四日閉鎖九月十六日其一部ハ戦地ヲ
出發セリ

明治三十八年十月三日

大本營海軍幕僚

分割撮影ターゲット

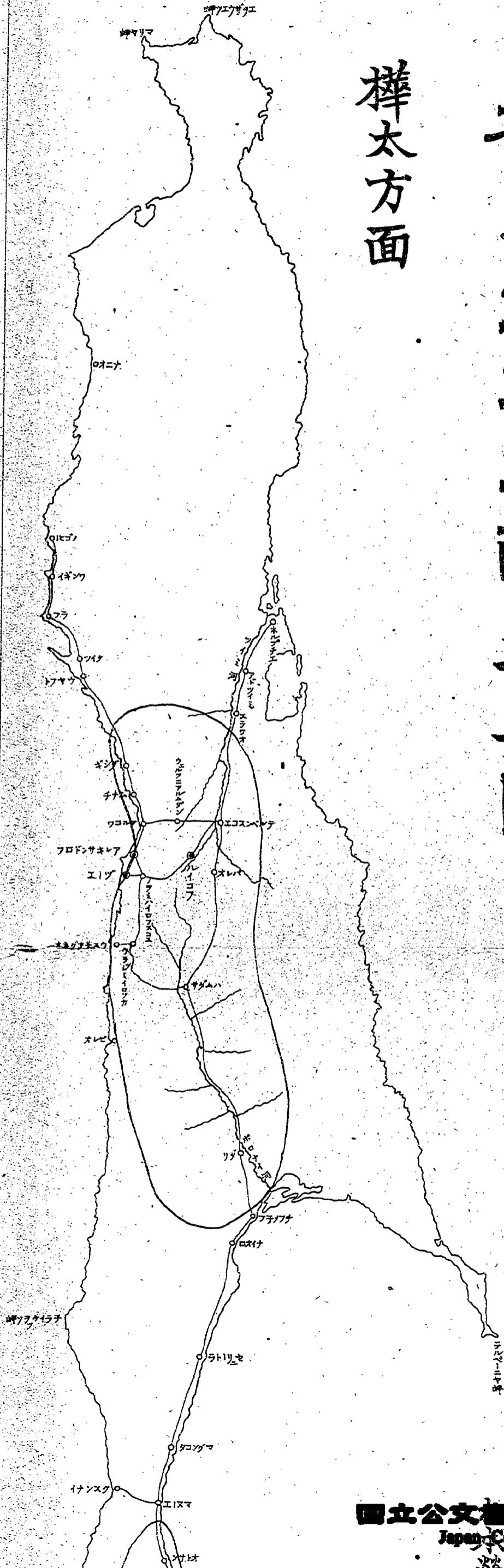
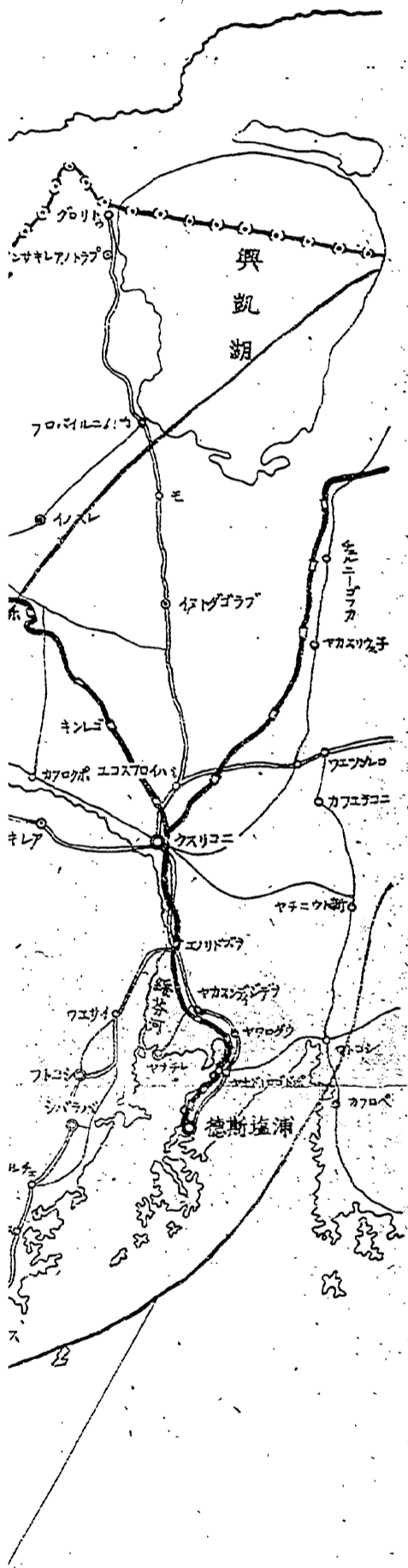
分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="651 654 1104 1084"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2								
3	4								
5	6								
7	8								
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め								
上記のとおり分割撮影した事を証明する。									

秘

0848
0849
0850
0851
0852
0853
0854
0855

極東露軍之配置畧圖

樺太方面

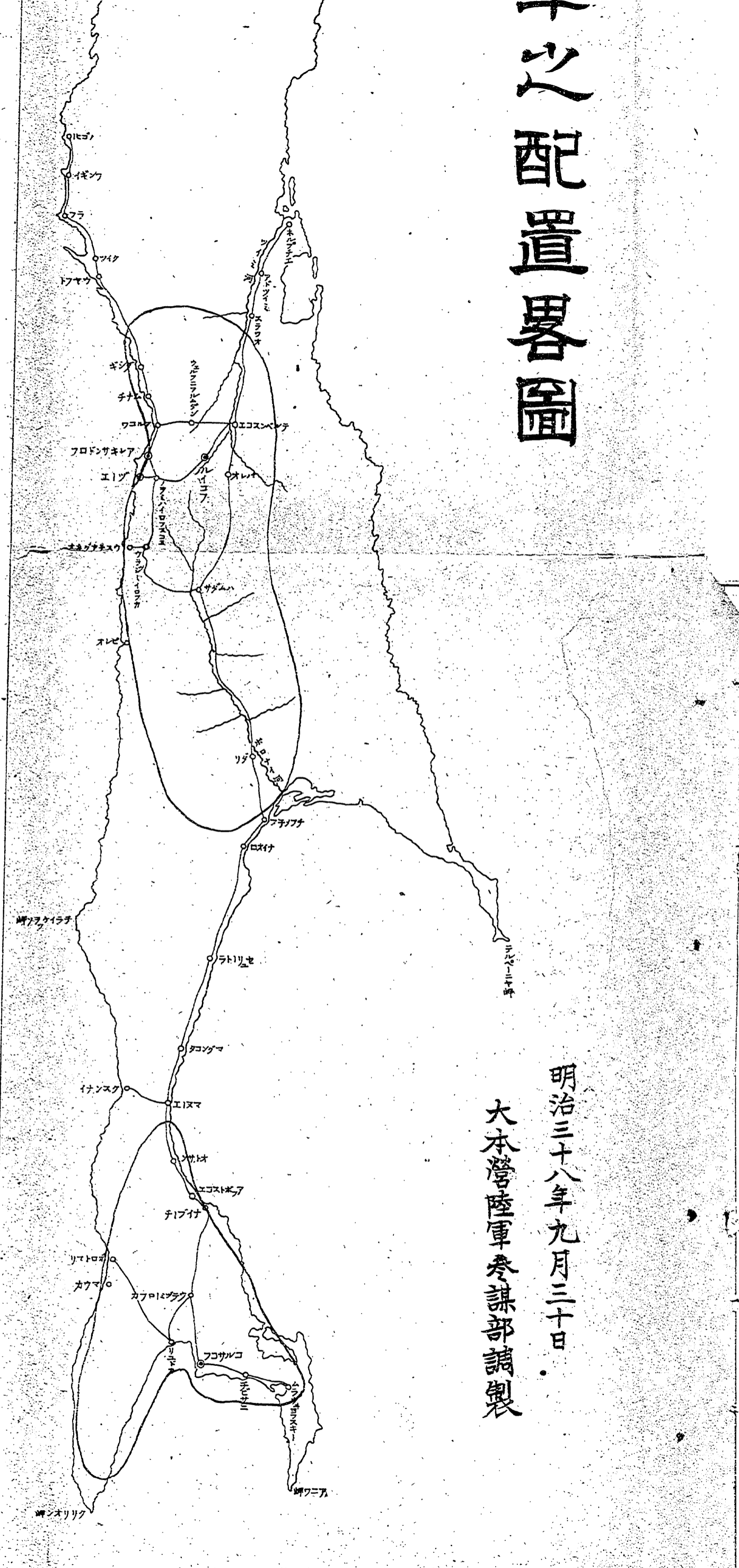
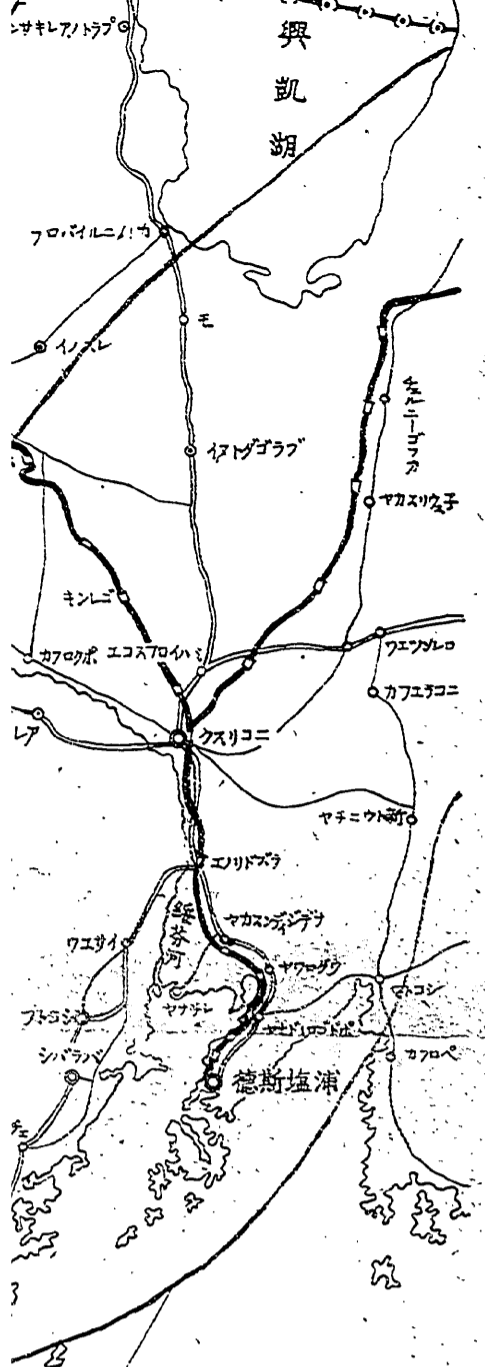


歩砲兵

ハハロフスシ	歩兵聯隊	同	同	東部伯都犂第二師團
ニ	歩兵聯隊	同	同	第八師團
三	歩兵聯隊	同	同	第十師團
八	歩兵聯隊	同	同	第十九軍團一部
十六	歩兵聯隊	同	同	第六師團
十六	歩兵聯隊	同	同	第一師團

四二三八十六十六

下ノ配置畧圖



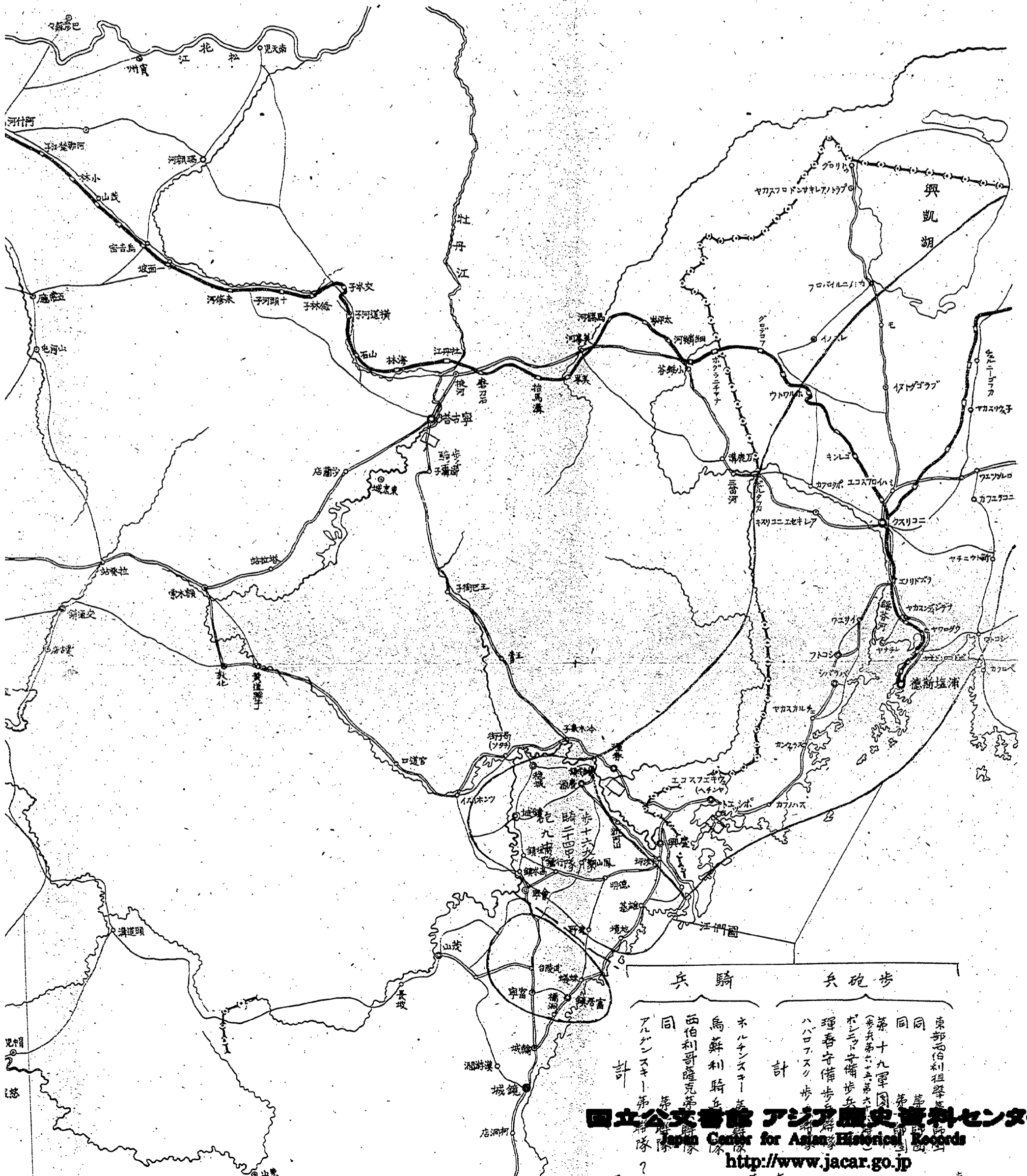
歩砲兵

東部師団	第百八師団	第百九師団	第百十師団	第百十一師団
歩兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵
二	二	八	十六	十六
			(四)	(六)

海軍	砲兵	砲兵
第一師団	第一隊	第一隊
(二)中隊		

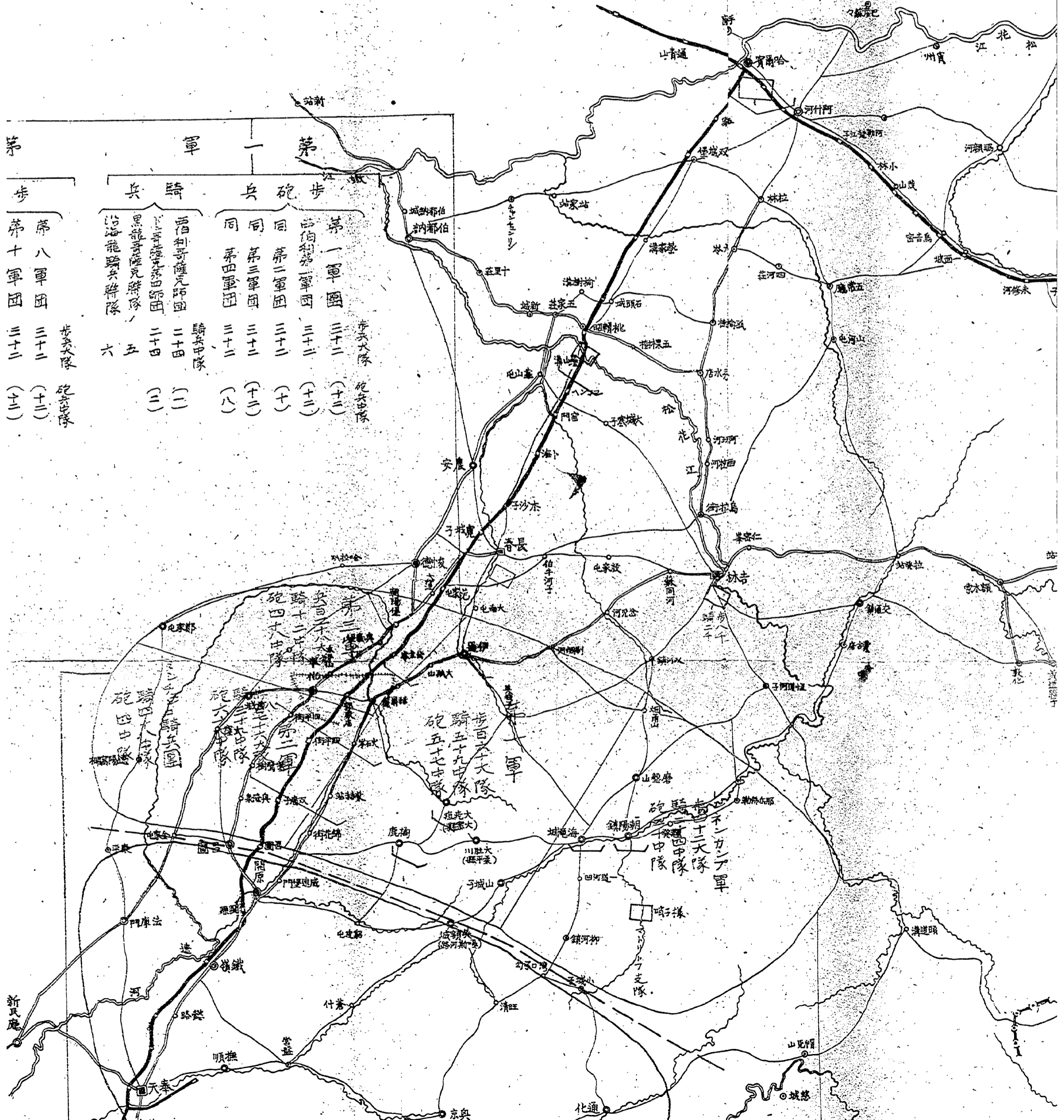
明治三十八年九月三十日
大本營陸軍參謀部調製

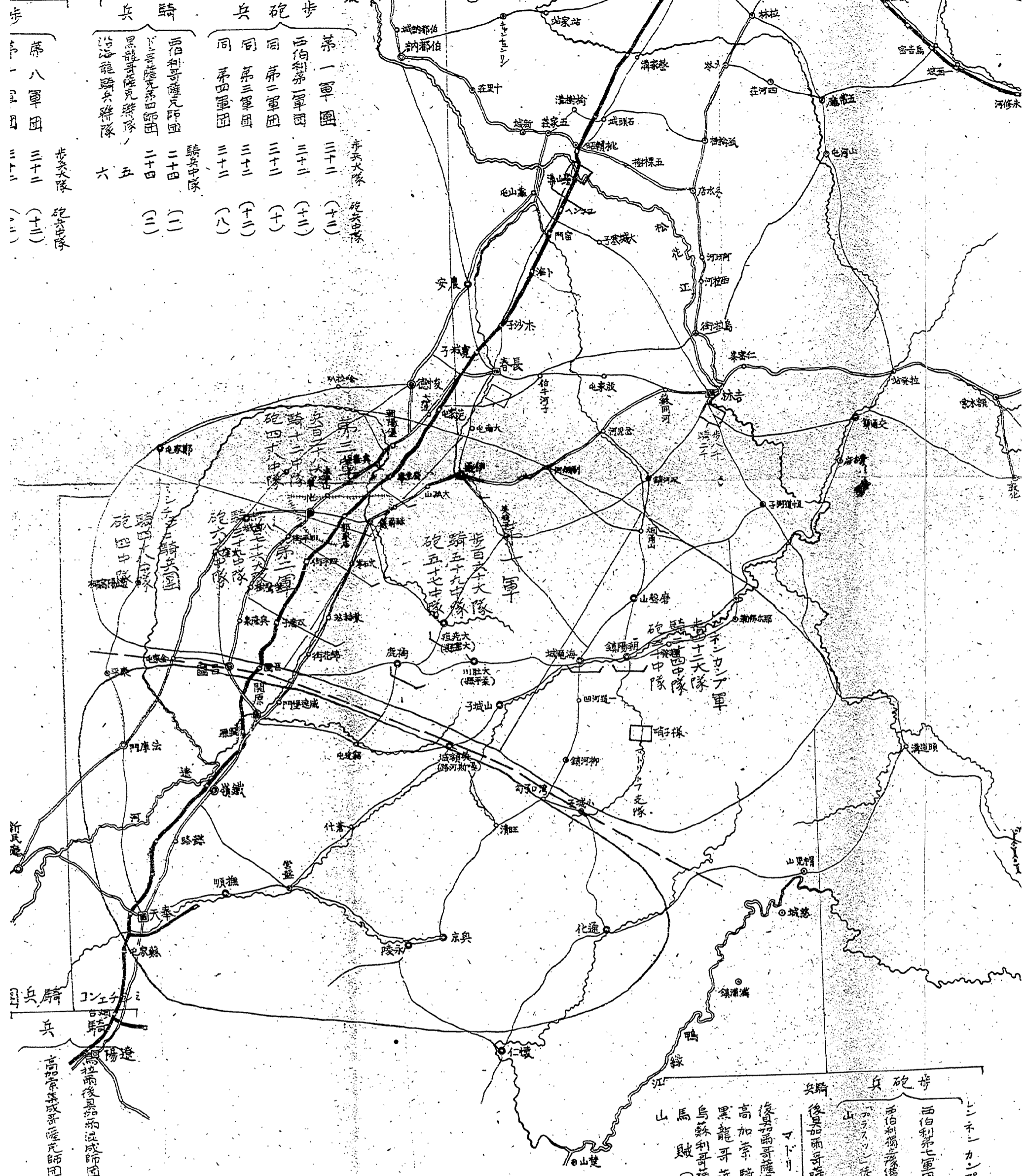
烏蘇利及滿洲



利及滿洲方面

第一軍		第二軍		第三軍	
步兵	騎兵	步兵	騎兵	步兵	騎兵
第八軍團	西伯利亞騎兵師團	第一軍團	騎兵中隊	第二軍團	騎兵中隊
第三十二	二十四	第三十二	三十二	第三十二	三十二
(十二)	(三)	(十二)	(八)	(十二)	(十)
第十軍團	黑龍騎兵隊	第三軍團	騎兵中隊	第四軍團	騎兵中隊
第三十二	六	第三十二	三十二	第三十二	三十二
(十二)	(三)	(十二)	(八)	(十二)	(十)





步兵
第八軍團
三十二
三十二
三十二
步兵大隊
砲兵大隊

騎兵		砲兵		步兵	
第百一十四師團	第百一十五師團	同第百一十四師團	同第百一十五師團	同第百一十四師團	同第百一十五師團
二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四
(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)

騎兵
步兵
第百一十四師團
二十四
三十二
騎兵大隊
砲兵大隊

騎兵		砲兵		步兵	
後島師團	後島師團	第百一十四師團	第百一十五師團	第百一十四師團	第百一十五師團
二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四
(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)

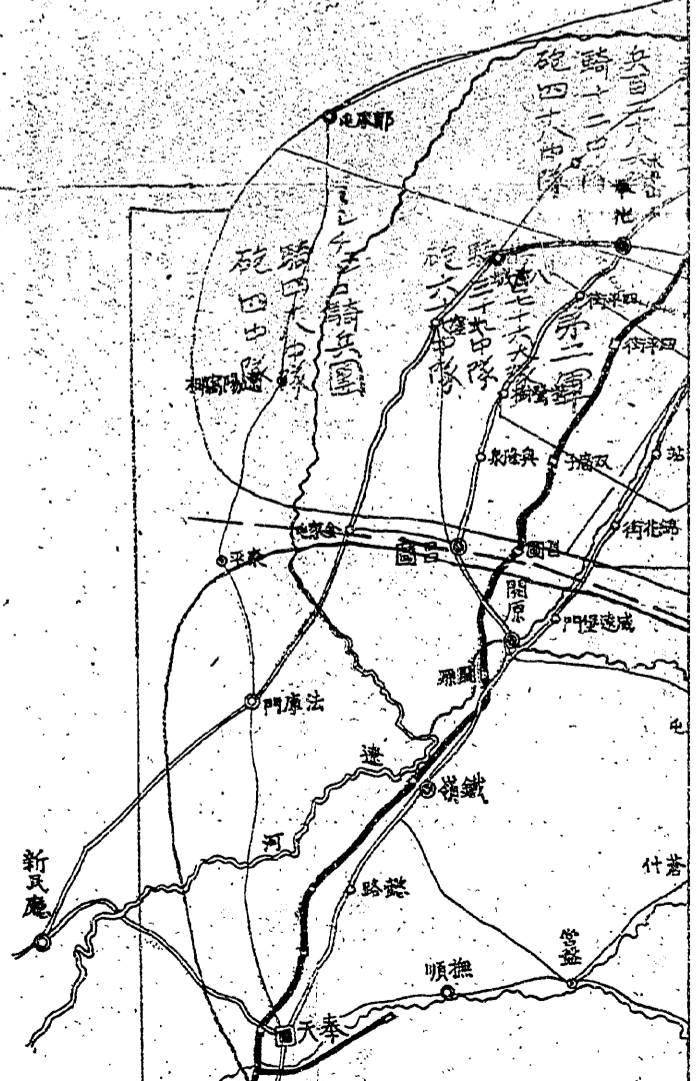
第 一 軍			第 二 軍			第 三 軍		
步	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
第一軍團	三十二	(十三)	第八軍團	三十二	(十二)	第四軍團	三十二	(十三)
同第二軍團	三十二	(十)	第十六軍團	三十二	(十三)	第十七軍團	三十二	(十三)
同第三軍團	三十二	(十二)	西伯利亞第一軍團	三十二	(十三)	西伯利亞第二軍團	三十二	(十三)
同第四軍團	三十二	(八)	但察第一軍團	四十八	(十八)	但察第二軍團	三十二	(十三)
騎兵中隊			騎兵中隊			騎兵中隊		
步兵大隊			步兵大隊			步兵大隊		
砲兵大隊			砲兵大隊			砲兵大隊		

所 屬 不 明

步	砲	騎
第十九軍團	二十四	(十三)
第十三軍團	三十二	(十三)
騎兵中隊		
步兵大隊		
砲兵大隊		
計	八十八	(六十九)

兵 力 計

滿洲方面			烏蘇利方面		
步兵	騎兵	砲兵	步兵	騎兵	砲兵
九	三	六	九	三	六



備 考

一、滿洲方面ニ於テ、步兵一大隊ノ銃數ヲ平均約七百、新來ノ第十九、第九、第十三軍團ノモノヲ九百ト計算ス(騎兵六百、烏蘇利方面ニ在リテハ步兵一大隊ヲ九百銃ト計算ス)

二、本表砲數ノ外、哈爾濱ニ重砲百二十門、(補充砲數不明ナルモ前旬、モリニ六中隊分ヲ加フ)

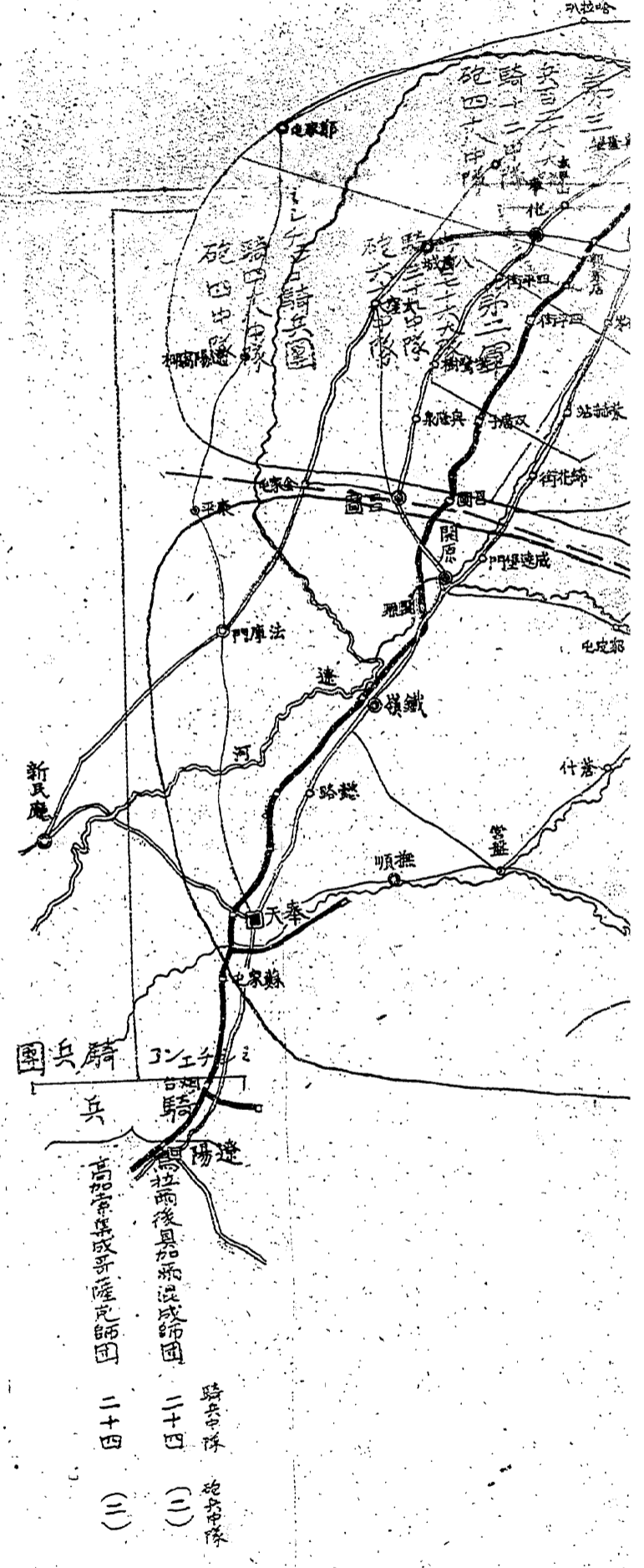
- 第一軍團 三十二 (十二)
- 西伯利亞軍團 三十二 (十二)
- 同第二軍團 三十二 (十二)
- 同第三軍團 三十二 (十二)
- 同第四軍團 三十二 (十二)
- 騎兵中隊
- 西伯利亞陸軍師團 二十四 (二)
- 西伯利亞騎兵師團 二十四 (二)
- 黑龍江騎兵隊 五
- 沿海龍騎兵隊 六
- 步兵大隊 砲兵中隊
- 第八軍團 三十二 (十二)
- 第十軍團 三十二 (十二)
- 第十六軍團 三十二 (十二)
- 西伯利亞第六軍團 三十二 (十二)
- 組隊第一軍團 四十八 (十二)
- 西伯利亞騎兵師團 二十四 (二)
- 高加索騎兵隊 九
- オレンブルグ騎兵隊 六
- 步兵大隊 砲兵中隊
- 第十七軍團 三十二 (十二)
- 西伯利亞第五軍團 三十二 (十二)
- 組隊第二軍團 三十二 (十二)
- 獨立騎兵第二旅團 十二

所屬不明

- 步兵大隊 砲兵中隊
- 第十九軍團 二十四 (十二)
- 第九軍團 三十二 (十二)
- 第十三軍團 三十二 (十二)
- 東部西伯利亞砲兵
- 騎兵砲兵第一大隊 三 (一)
- 白地砲兵第二大隊 三 (一)
- 東部西伯利亞砲兵聯隊 三 (一)
- 偵偵連射砲 三 (一)
- 計 八十八 (六十九)
- 騎兵中隊 六
- 西伯利亞陸軍師團 六
- 黑龍江陸軍大隊 三
- 計 九

兵力計

滿洲方面			烏蘇利方面 (〇條部隊重要)		
砲兵	騎兵	歩兵	砲兵	騎兵	歩兵
二百六十中隊	百九十二中隊	五百九十四大隊	十六中隊	二十九中隊	六十五大隊
千九百四十門	二萬八千八百騎	四十三萬三千四百銃	百二十八門	四千三百五十騎	五萬八千五百銃



備考
 一、滿洲方面ニ於テハ歩兵一大隊ノ銃數ヲ平均約七百新來ノ第十九、第九、第十三軍團ノモノヲ九百ト計算ス(騎兵百五十騎ト計算ス)
 烏蘇利方面ニ在リテハ歩兵一大隊ヲ九百銃ト計算ス
 二、本表砲數ノ外ハ爾賓ニ重砲百二十門アリ(補充砲數不明ナルモ前旬、モリニ六中隊分ヲ加フ)

自十二月至翌年九月 歐露軍隊到着兵数一覽表 明治三十八年九月調

考 備	月 九		月 八		月 七		月 六		五月		月 四		月 三		月 二		月 一		月 二十		月次	部 隊 號	步 兵	騎 兵	砲 兵	計																					
	計	補 充 兵	第 九 軍 團	補 充 兵	東部留利山砲 第十五中隊	第 九 軍 團	補 充 兵	騎山砲第一大隊	補 充 兵	東部留利山砲 第十五中隊	第 五 十 三 師 團	補 充 兵	高聖集成哥薩克師團	補 充 兵	第 四 軍 團	補 充 兵	第 十 六 軍 團	補 充 兵	狙 擊 第 五 旅 團	重 砲							補 充 兵	第 十 六 軍 團	狙 擊 第 一 第 二 旅 團	第 八 軍 團	計																
一 本表ニ兵 鐵道兵等ノ非戰部隊ヲ掲ケス 二 歩兵一大隊ヲ九百 騎兵一中隊ヲ百五十 砲兵一中隊ヲ八門(臼砲騎砲六門)ト計算ス 三 補充兵ハ仮リ之ヲ歩兵ノ中ニ加算ス 四 一部隊ノ兩月ニ亘リ到着セシハ其到着期間ニ比例シテ兩月ニ区分ス	約 二 十 六 大 隊	約 五 千	十二 大 隊	約 一 万	三 中 隊	六 中 隊	十二 中 隊	四 中 隊	二 中 隊	六 中 隊	三 中 隊	二 中 隊	二 中 隊	十 中 隊	三 中 隊	約 八 十 門	六 中 隊	十 中 隊	約 八 十 門	六 中 隊	十 中 隊	計	步 四 二 四 八 〇 〇	砲 三 六 〇 〇	九 二 八	步 四 四 六 〇 〇	砲 一 四 四	步 五 六 八 〇 〇	砲 一 八 〇	步 六 三 六 〇 〇	砲 四 八	步 六 〇 八 〇 〇	砲 七 二	步 五 〇 〇 〇	砲 一 〇 八	步 三 九 二 〇 〇	騎 三 六 〇 〇	砲 一 〇 八	步 二 六 四 〇 〇	砲 四 八	步 五 八 〇 〇	砲 一 六	步 三 五 四 〇 〇	砲 一 〇 四	步 五 三 〇 〇 〇	砲 二 〇 八	計

極秘

大海情 陸第五拾號

露軍ノ近況

一、一般ノ情況

(一) 滿洲方面

(十月十日大本營)
陸軍幕僚調査

離隔地帯内ニ少数ノ敵兵徘徊シ或ハ掠奪シ或ハ糧食、防
寒具ヲ徵發スルノ外情況ニ變化ナシ

露軍ハ九月二十三日四平街停車場附近ノ家屋及其北方ノ鐵道

ヲ破壊シ木材及軌鐵ヲ北方ニ搬去セリ此等ハ長春ニ送り冬營

用ニ充ツルモノナリト云フ休戰條約締結ニ関シ總司令官ノ下セシ命

令ニ曰ク平和條約批准後即十月二十三日頃全軍ヲ寬城子長春以北

ノ鐵道線路ニ沿フ地區ニ轉宿セシムル筈ナリ此地方ノ村落ハ

全軍ノ投宿ニ不充分ナリ故ニ今ヨリ敵舎ノ建築ヲ始メ冬期ノ

宿營ニ堪ヘ得ル如ク暖室ノ諸準備ヲ為シ軍隊轉宿迄ニ完
成スルヲ要ス又各團隊ハ日々諸種ノ演習ヲ施行シ特ニ團隊長
ハ軍紀ノ嚴肅、衛生ノ監督ニ注意スヘシト謀報ニ依レハ寬城子
停車場西南方ニ兵舎建築ノ敷地ヲ選定シ盛ニ土工中ナリ又九
月二十二日頃ヨリ鐵道ニテ寬城子及其以北ニ向ケ各部隊ノ兵卒
若干ヲ後送シツアリ多ク設營隊トランノウレキヤノ記事ニ
依レハ露軍ハ薪炭ニ缺乏シ在リト是レ家屋等ヲ破壊シ木材
ヲ後送シツ、在ル所以ナラン乎

九月二十六日公主岑來電ニ依レハ各國從軍武官ハ總司令官ニ告
別セリト第十軍團長ツエルヒツキー病氣ノ為メ還送セラレタリ

(二) 北韓方面

露軍ノ主力ハ慶興、阿吾地、沙灘里ニ在リ其兵力一萬ニ達ス其
砲約二十門ハ雄基ニ三十門ハ阿吾地ニ在リト云フ

九月二十八、九日敵ノ歩騎兵數百ハタラサオ及頭道溝ニ来リ瀨
本回佃江左岸ニ出沒シ我糧食徵發ヲ妨害セリ

ルスキー島ニハ東部西伯利砲兵第十旅團ノ第三中隊アルカ如シ

(三) 樺太方面

講和條約ニ據リ樺太北半部ヲ露國ニ引渡スコト、為リ去ル九日

イジツキー大佐ハリネウチノ命ヲ帶ヒアレキサンドロフニ来リ

我守備隊長トノ間ニ左ノ約束ヲ結ヘリ音要

批准前ニ露路國軍政官及文官ヲ送り引渡ニ関スル豫備商議

ヲ為ス批准後日本軍及其物資全部撤去ニ勉ムルモ航海ノ杜

絶スルトキハ冬營セサルヲ得サルヲ以テ現状ノ儘宿舎、倉庫、

土地等ヲ占有スルヲ得本島日露ノ境界ハ我政府ヲ指命スル

委員ニ於テ決ス

(四) 欧露ニ於ケル情况

九月二十六日オテツサ来電ニ依ルハ第二十一軍団ノ歩兵第百三十
聯隊ノ三千ト砲兵ニ中隊ハ高加士騷亂鎮壓ノ為メ汽船ニ搭
載セラレバツノムニ向ヒ出發セリ

ウキテヨ總理大臣トスル内閣組織セラルヘシト云フ

講和條約ノ批准ハ不日行ハルナラント傳フ

内地ノ騷亂ハ今後尚ホ繼續ノ模様アリ

二、軍隊ノ移動

増援隊ノ發著ニ関スル情報全ク絶エタリ唯、及亂水兵一千八

百二万八千トアルモ單在、誤ナランハ極東ニ於ケル懲罰的服役ノ為メ九月二十三日

サマラヲ通過セルコト東部西伯利山砲兵第十六中隊ハ極東ニ派

遣途中ヨリ歸還セシメラレタルコトヲ知ルノミ

九月二十二日ヨリ十月二日迄寛城子ヲ通過レ南下セシモノハ各隊ノ
少数ノ補充兵、病院車、糧秣被服、生牛、羊及空軍貨車等ニ

0860

レテ毎日五乃至十列車ナリ又同地通過北上ノモノハ各部隊ノ兵
（多分設營或ハ病氣後送者等）病院車軌鐵、枕木、木枝、煉
瓦及空貨車ニレテ毎日五乃至九列車ナリ

三、勤員編成

九月五日勅令ニテ速射砲彈藥縱列五個輕彈藥縱列十個ヲ編
成シ極東ニ派遣セラル此縱列ハ在戰地ノ彈藥大隊ニ編入スル
カ或ハ指定ノ砲兵中隊ニ適合スル如ク之ヲ砲兵彈藥大隊ニ編成
スルカハ總司令官ニ委任セラレタリ

總司令官ノ為シタル黑龍軍管騎山砲中隊ノ為メノ騎山砲彈藥
半縱列ノ編成ハ九月二十三日裁可セラレタリ

野戰臼砲第四大隊ハ七月十一日同第五大隊ハ七月二十日編成
完結セリ

東部西伯利山砲第二十三乃至第二十六中隊ハサハラニ於テ編

成中ナリシカ未タ完成セス

四 鐵道

西伯利鐵道及サマラ、ズラトウスト鐵道ハ八月以後一日三十列
車ヲ運行スト云フ

貝加爾湖線ハ八月頃工事ヲ竣ハリ一般ノ交通ニ用フ其輸送
ハイルクツク、ヨリストレチンスク若クハ清國々境迄直通ス而シテ
貝加爾湖上ノ汽船ハ補助トシテ荷物及旅客ノ輸送ニ使用ス

五、撤兵ニ關スル情報。

業報ニヨレハ第一、極東ヨリ還送セララルヘキハ第十、第十七軍團ニシ
テ極東軍ノ大部殊ニ豫備師團ハ永ク極東ニ殘留セシメララルナラン
是レ露國ニテハ歸還兵ノ紛亂ヲ惹起スルヲ恐ルカ、故ニ極東軍
ヲシテ自然的ニ殖民ノ基礎ヲ極東ニ開カシメント欲スナリト云フ
十月一日ノ勅令ニ依レハ俘虜交換後旅順ニテ降伏セシ軍隊ノ人員ヲ

以テ極東ニ當該団隊ヲ再設メ而シテ東部西伯利狙撃手歩
隊ヲ第五、第十三乃至第十六及第二十五聯隊ノ軍旗ヲ極東ニ送
リ旅順開城ノ際之ヲ何等カノ方法ニ依
リ露本國ニ送り保存セシナラン 又旅順攻圍ノ為メ遂ニ授
興シ得サリシ同第二十六乃至第二十八聯隊ノ軍旗ヲ今回新ニ
授興ス又同団隊ノ豫備役兵ヲ還送シ其缺員ハ極東他ノ団
隊ヨリ補填スル筈

トムスクノ陸軍病院ハ九月二十八日頃大部閉鎖セラレタリ

浦塩要塞司令官ハ八月二十九日赤十字社員撤去ノ為メ送別
會ヲ催ヒリ

附記

極東露軍ノ配置一覽圖ハ前旬九月三日
テ之ヲ省ク
ノモノト異ナラサルヲ以
十日調

明治三十八年十月十三日

大本營海軍幕僚

0864



大海情 陸第五拾壹號

路軍ノ近況

一、一般ノ情況

(十月二十日大本營
陸軍幕僚調査)

露帝ハ去ル十四日ヲ以テ講和條約ニ批准シ十五日日露兩國
互ニ其批准ヲ通告シ茲ニ平和ノ克復ヲ見ルニ至レリ

滿洲露軍ハ數旬前ヨリ長春哈爾濱間ニ宿營地ヲ轉スルノ
準備ヲ為シ今ヤ哈爾濱停車場南方大幕營地ニ步兵約
二萬野砲約三十門アリ又寬城子ニハ約一萬ノ兵アリ首カハ今
尚ホ奉化附近ノ陣地ニ在リテ撤退ノ準備中ナリ

頃日陣地ヨリ寬城子ヲ經テ北方ニ轉送セラレモノ各部隊混
合兵及材料殊ニ鐵道用材料ニシテ南行ノ列車ハ殆ント皆空
車ナリ

0865

北韓方面ニ於テ、沙灘里ニ在リシ露軍、大部ハ本月初行營ニ移リ目下一千餘名同地ニ在リシ樵夫附近ニ歩騎千五百砲若干アリタラザオニ兵百二十、驍道洪ニ騎兵百アリト云フ

二、戦後ニ於ケル極東ノ經營

上海ヨリ出タル稍信マヘキ報道ニ依リハ露國ノ經營スヘキ問題ハ左ノ五項ナリト云フ

一、交通機關ノ改善、西伯利鐵道ヲ複線トスルノ外後貝加爾

州ヨリ別ニ岐入レテハバロフスク線ニ接續セシムルコト

二、黑龍江ノ其所ヲ浚渫シテ運輸ノ便ヲ完フスルコト

三、浦鹽港内ニ完全ナル船渠ヲ築造シ獨立軍港ノ完備ヲ為

スルコト

四、黑龍江畔ニ黑龍江要塞部ヲ設キ之カ守備ヲ永久的ニ計

畫スルコト

五、東部西伯利軍、兵器彈藥等、獨立方法を講ぐるコト
現極東軍中西伯利ニ殘留スルモノ概ネ左ノ如クナラン

歩兵二軍團

騎兵三旅團 (徒歩哥薩克兵共)

砲兵二旅團

鐵道一隊 (戰車中隊、中隊)

要塞砲兵ハ沿岸ノ外ニ黑龍沿道要塞隊ヲ現極東軍ノ
重砲隊ヨリ編成スルコト

現極東軍、約三分一ヲ東部西伯利ニ常駐セムヘシトノ説アル
モ為ニ歐路ノ軍隊ヲ減少スルト經營ノ多入ナルトニ因リ多分
實施スル能ハサル、但シ當分ノ内大部、兵ヲ極東ニ止ムルコト
ハ露本國ノ民心動搖ヲ恐ル、等、特別ノ事情ニ基クモノニシテ
永久駐兵スルモノニ非サルナリ

0867

明治三十八年十月二十四日

大本營海軍幕僚

0868

極秘

大海情 陸軍第五拾貳號

陸路軍ノ近況

(十月三十一日大本營
陸軍幕僚調査)

一、一般ノ情況

滿洲ニ於ケル露軍ノ大部殊ニ騎兵及砲兵ハ全部陸路ヲ取リ
長春以北ニ移転シツテアリ總司令官レ子ノウキチハ尚ホ公主

嶺ニ在リ

十月二十二日露軍總司令官ノリ二十三日ヲ期シ撤兵ニ関スル
商議ヲ為サンカ為メ委員ヲ指定セシテ旨通知シ来リ之ニ對シ
我總司令官ハ會見ヲ三十日ニ延期スルキコトヲ申送レリ
實城子城外ノ民家ハ殆ント全部軍隊ノ宿舍ニ充テラレ又同地ニ
集マリ居ル騾馬四五千頭ハ近日拂下タル者ナリト云フ
支那人ノ言ニ據レハ俄路國ハ尚ホ永ク哈爾濱ヲ諸兵七八萬ヲ

竹内



0869

駐地セシムル計畫ヲ為シ本年ハ既成急造倣舎ヲ以テ宿營セシ
ムルモ漸次之ニ代フルニ兵營ヲ建築スル所古ニテ既ニ一部工事ノ
請負ヲ命セリ又チタニ於テモ永久兵營ヲ増設スル企圖アリ
リテ現ニ職工及木材等ヲ集積シツアリト云フ
北韓方面ニ於テハ我ヨリ撤兵ニ関スル商議ヲ申込ミタルモ露軍
總司令官、訓令ヲ待ツコトヲ回答シ来リレカ三十一日大佐ダブロス
キ、使トシテ来リ平和克復セルモ尚ホカ協議ヲ要スルコトアリヤ其
ヲ問ヒ未ダ要領ヲ得ヌ多分商議ヲ經ルコトナクシテ露軍ハ
撤退スルニ至ルヘシ雄基ニ在ル露兵（ホリエット聯隊ニ屬ス）
ハ去ル二十九日頃浦塩方向ニ撤退セリト云フ又露ノ使節大佐ノ
言ニ據レハ今後一週間後ニ撤退スル筈ナリト云フ
樺太北部ハ露國委員ハ引渡サレ我最後ニ残リシ守備兵ハ去ル
二十五日乗船シテ撤退セリ

0870

歐露ニ於ケル騷亂ハ今ヤ其極ニ達シ各地ノ交通断絶シ諸所
ニ人民ト軍隊トノ衝突アリ露軍蒙受ノ準備中ナリト傳フ
「ルッ」新聞ニ據レハ軍部ニ於テハ兵役ヲ十年トシ内ニ十年ヲ現
役ハ八年ヲ豫備トスヘキ説盛ナリ此改正説ハ今面ノ戦役ニ於テ
入營後若干月ヲ經タル兵卒ハ最老年級ノ豫備兵ニカラスル
實驗ヲ得タルニ依ルト云フ

二、交通ニ関スル情報

サマラ、ズラトウスト 鐵道ノ復線土工完結セリ

西伯利線ニ在リテハ數多ノ待避線ハ増築セラレ停車場若クハ
待避線ノ間隔平均七、八路里ニ減縮セリト云フ

貝加爾回湖線ハ九月初降雨ノ為メ非常ニ破損シ交通杜絶セリ
破損ノ部ハ五十六路里ノ長ニ亘リ此間更ニ迂回線ヲ構築ス
ルノ必要アリ

西國政府カ獨ニ汽船ヲ用テ試行ヒ北氷洋ニ至ル河ロニ向ヒン
航海ハ好結果ヲ得タリ次田ノ航海ハ明年實施ノ旨
ブラジエニチエンスクニテハ汽船ノ航行盛ニシテ航路ノ終期迄ニ
ハストレチンスクヨリ五十萬普以上ノ貨物當地ニ到著スル旨ナリ
ト云フ

明治三十八年十月三日
大本營海軍幕僚

0872

極秘

大海情 陸軍五拾參號

露軍ノ近況

一、一般ノ情況

(一) 滿洲方面

撤兵等ニ關スル商議ハ十月三十日午後四時ニ於テハ彼我全權委員ノ會見ニ依リ左ノ如ク決定セリ 附圖 參照

本年十二月三十一日迄ニ

千九百六年六月一日迄ニ

千九百六年八月一日迄ニ

露	日本	露	日本
三河屯、官見城子、八里堡、線以北ニ	新居屯、太子天、撫順、線以南ニ	法庫門、鉄嶺、撫順、線以南ニ	三城子、公主岭、伊通、線以北ニ
			法庫門、金家屯、口田園、威遠堡、門撫順、線以南ニ
			伊通、葉赫店、葦草子溝、八面城、三城子、線以内ニ
			法庫門、鉄嶺、撫順、線以南ニ

(十一月三十日大本營) 陸軍幕僚調査

0873

千九百六年四月十五日以後滿洲ニ戰鬪員二十五万以上ヲ有ス
ルコトヤク同十月十五日以後ニ七万五千以上ヲ有スルコトナレ双方
ノ撤兵ハ千九百七年四月十五日請ニ全部結了スヘキモノトス
鐵道線路引渡ノ為ノ委員ヲ設ケ千九百六年四月中旬ヨリ
業務ヲ開始シ公主嶺以南ハ同六月一日迄ニ其北方ハ同八月日
迄ニ結了スヘシ

前面陣地ヲ占領セル路軍ハ汽車及陸路ニ由リ陸續公主嶺以東
哈爾濱迄ノ間ニ撤兵シツ、在リ但シ哈爾濱ヨリ歐西路へ帰還セシ
者未タ無キカ如シ是レ内地ニ於ケル騷亂殊西伯利鐵道ノ不通
ニ起因スルモノ、如シ

第十三軍團ハ哈爾濱イルクツク間ノ鐵道線路上ニ在リテ鐵
道ノ守備ニ任シ在ルカ如シ

(二) 北韓方面

北韓、撤兵ニ関シテハ十一月三日午正明彼我委員ノ會見アリテ
露路軍ハ十一月三日ヨリ五日マテニ韓國領土内ヨリ撤退スルコト
ヲ約シ日本軍ハ同五日マテニ前線ヲ富居、會寧ノ線ニ引揚ケ
露軍隊ノ撤退終ルマテハ前進セサルコトヲ定メタリ然ルニ十一月
七日附ノ露軍通報ニ依リ慶興附近ノ橋梁結氷ノ為メ破壊
シ未タ渡河スル能ハズト其後、情報ニ依リ九日マテハ撤退ヲ
終ラス約八千ノ歩騎兵慶興、阿吾地ニ駐屯セシメ爾後氷ヲ
踏ンテ逐次撤退シ十一月ニハ慶興ニ五、六十名ヲ残セシメ
五日ニ至リ北韓露軍ハ全ク撤退シ畢リ只残留糧秣ヲ旌
基方面ヨリ輸送シ十九日ニ及ヘルカ如シ我守備隊ハ十七日
慶興ニ十六日慶源、穩城、鏡城ニ到着シ北韓地方ハ全
部我カ領有スル所ト爲リ
浦塩斯德ニ於テハ騷亂起リ日本ニ在ル露國僑民ノ同地ヘ

ノ還送ハ一時見合セラレタリ

(三) 歐露ニ於ケル情況

内地諸所ノ騷乱益々甚レテ 鐵道ノ交通断絶セリ 彼得堡ノ騷乱歩ヲ進ノウ斗テモ施スヘキ策ナレ 白王帝ハ十五日カールスコエセロニ移レリ 露國新内閣ノ主ナル大臣左ノ如シ

總理大臣 ウ斗テ

外務大臣 ラムストルフ

大藏大臣 シポツフ

内務大臣 ガルノヴオ

司法大臣 ムラビエフ

海軍大臣 ビリレフ

陸軍大臣 サハロフ

二、撤兵及復員

ス

0876

稍、信スヘキ牒報ニ依レ、欧露部隊中今後西伯利ニ駐屯ス
ルハ担數キ第一、第二軍團、西伯利第五、第六軍團ニシテ駐屯
ノ總員歩兵三十二万二千人、砲千二百乃至千四百門ナリ騎
兵ニ就テハ未詳、還送ノ軍隊ハ第一、第四、第八、第十、第十六
第十七軍團ナリト云フ

露都新聞ニ依リ十月二十八日ヨリ開始スヘキ極東野戦軍
還送ハ鐵道同盟罷工ノ為メ一時中止ノ姿ナリ滿洲ヨリ還送
軍隊中第一軍團ハ先頭部隊ナルヘシト云フ

軍事會議ハ此頃極東軍隊ヲ十一月ヨリ還送スルコトヲ審
議セリ但シ滿洲ニ在ル七十万ノ内四十万ヲ欧露ニ還送シ三十
万ヲ極東ニ残留セシムヘシ一説ニ滿洲軍下士卒中ヨリ志願
者ヲ莫カリ五万ヲ黑龍州地方ニ五万ヲ西伯利ニ屯田セシムル
計畫アリト云フ

0877

露都新聞ニ依リハ十一月中旬ヨリ還送スル部隊ノ順序ハ第
十三軍團、第一軍團、西伯利第四軍團、高加士、西伯利、ドン
哥薩克諸師團及烏拉爾騎兵旅團ナリ
復員ニ関シ「インワリード」記スル西安肯左ノ如シ

歐洲ニ在ル補充大隊百、同前進大隊十四、

第一、豫備兵約十萬ノ復員

鉄道ノ同盟罷工ナケレバ既

ニ以テ結セシナラン

第四軍七騎兵補充隊ノ前進中隊砲兵
補充旅團、工兵隊、カザン軍管馬匹
補充部ノ三隊、其他ノ補助機關及
騎兵第十師團

第二、歐洲ニ在ル各部隊ノ千八百八十七年乃至千八百九十年

度豫備兵十三万三千ノ復員ハ右ト同時ニ令セラレタリ

第三、戦地及其附近ニ派遣セシ部隊ノ豫備兵ハ其部隊ノ

編成地へ帰還毎ニ逐次解散セララル

西伯利ニ於テ第一ニ解散セラル、モノハ國民兵ナリ

其他復員ニ關シ左ノ情報アリ

一 總司令官ハ既ニ軍中ニ在リ衛生、經理、砲兵縦列其他
後方勤務機關ニ解散ヲ命ジ其人員ヲ各隊ニ分配セリ

二 浦塩斯德ニ於テハ豫備兵五千解散ヲ始メタリ

三、野戰軍ニ於テ剩餘トナルヘキ歐洲馬匹二万二千ハ沿海州
黑龍州及後貝加尔州ノ住民ニ交付セラル

四、莫斯科ニ於テハ十一月十七日六百八人ヲ復員セリ

左ノ勅令公布セラレタリ

俘虜トナリタル旅順口要塞砲兵ノ兵員ハ還送ノ後之ヲ以
テ浦塩斯德要塞砲兵三大隊ヲ編成スヘシ

第三乃至第八白砲大隊同彈藥大隊及砲兵第三十二旅
團第一中隊砲兵第二十四旅團第二中隊ハ平時ノ編制ニ復

スヘシ又速射砲中隊五、砲兵彈藥縱列十ハ解散スヘシ
歐露軍隊ニ属スル千八百九十一年千八百九十二年度ノ豫
備兵ヲ解散シ且ツ軍管全体ノ千八百九十三年乃至千八
百九十六年度ノ豫備兵ハ解散ヲ準備スヘシ西伯利軍管
区ニ於テハ千八百八十七年乃至千八百九十年年度ノ豫備兵
ハ解散ヲ許可セラレイルクツク志願兵解散セラレタリ

三、鐵道

サマラ、スラホスト鐵道ハ開戦ノ當時一日ニ十列車廻避線
増設後ハ二十列車本年春ハ三十六列車ヲ運行セリ複線工
事完結セハ一日ニ六十列車運行ノ豫定ナリト云フ

九月二十四日イルクツク未電ニ依レハ十月ヨリ實施スヘキ西伯
利鐵道ノ運行計畫ハ一日二十列車ニシテ其内一週ニ最大急
行四列車、毎日郵便及旅客各一列車、貨客混合一列車ヲ

運行シ全ク平時ノ情態ニ復シタリト、是ニ依レハ軍用列車

ハ一日ニ約十六回ナルヲ知ル

十月下旬ヨリ十一月ニ自リ西伯利鉄道職工騒動ノ為メ列車

行通遮断セリ

中部西伯利線ゴロウインスカヤマリシ西地共ニイルククノ西方百六十路里以内ニ在リ

間復線工事ニ著手セリ十月二十五日鉄道材料搭載ノ船

船十五隻又ユニセイスクニ安著セリ多ク分復線用材料ヲ輸

送セハナラン

明春ブルイヨリクルガンヲ経テエカテリンブルグニ至ル鉄

道構築セラルハヤクニレテ此工事ノ材料ハ既ニ運搬セラレタリ

此線路ハ伯得堡ウヤトカ線ニ接續ス又チニーノニヨリオム

スクニ至ル鉄道ノ準備工事ハ完成シ在リ是ヲ以テ将来オム

スクハ西伯利鉄道上復線ノ頭部停車場トナルト云フ

近來トムスク商會議所ヨリチユーメニトムスクマリ
スク線ヲ以テチユーノニオムスク線ニ代ヘンコトヲ其助
提出セリ

明治三十八年十二月五日

大本營海軍幕僚

0882

分割撮影ターゲット

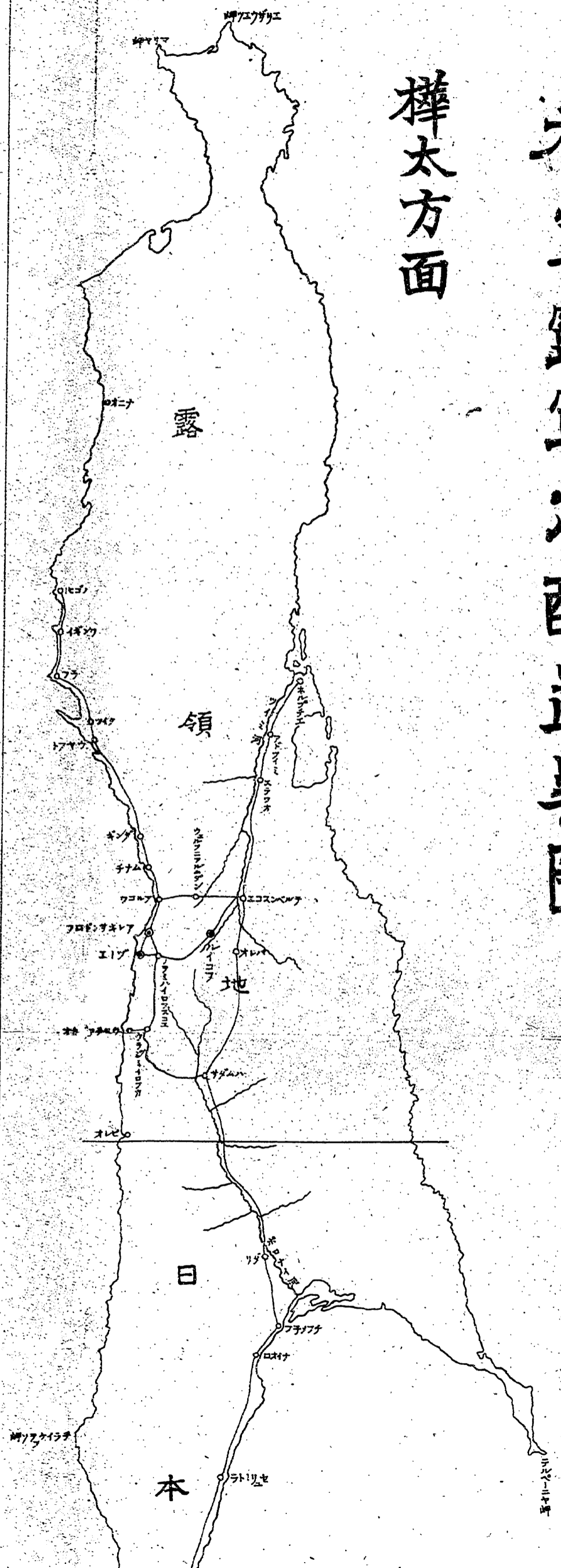
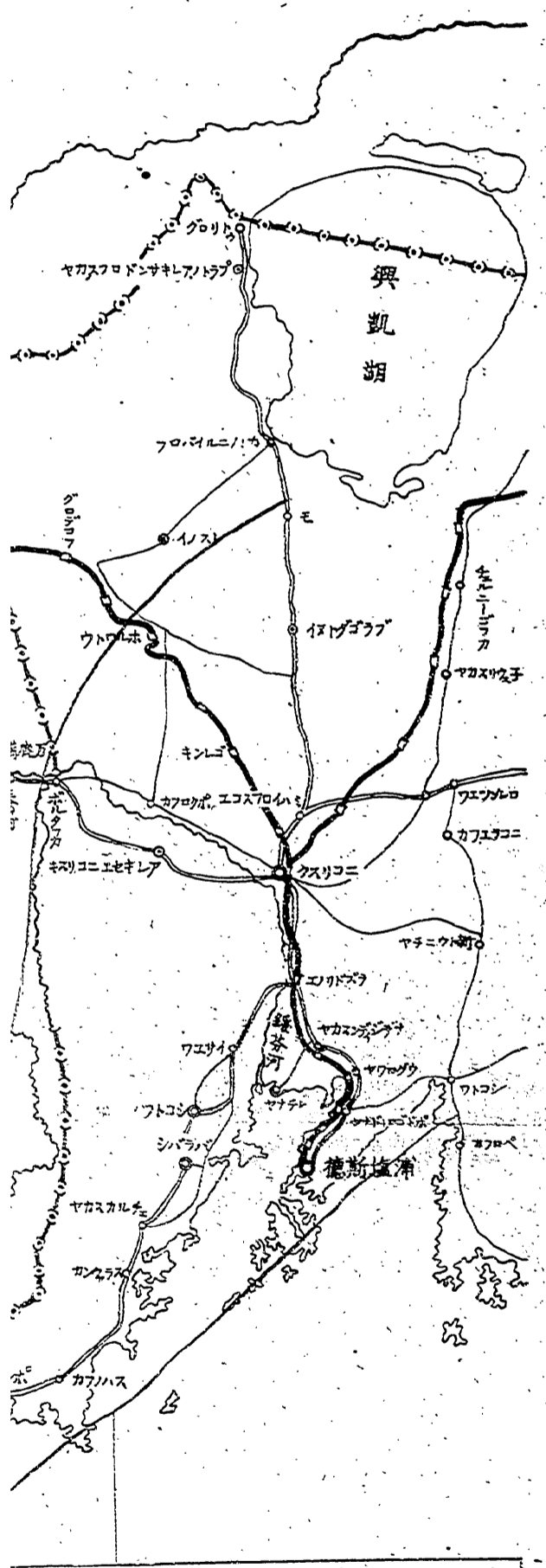
分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="654 638 1101 1064"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2								
3	4								
5	6								
7	8								
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め								
上記のとおり分割撮影した事を証明する。									

秘

極東露軍之配置畧圖

樺太方面

0883
0884
0885
0886
0887
0888
0889
0890

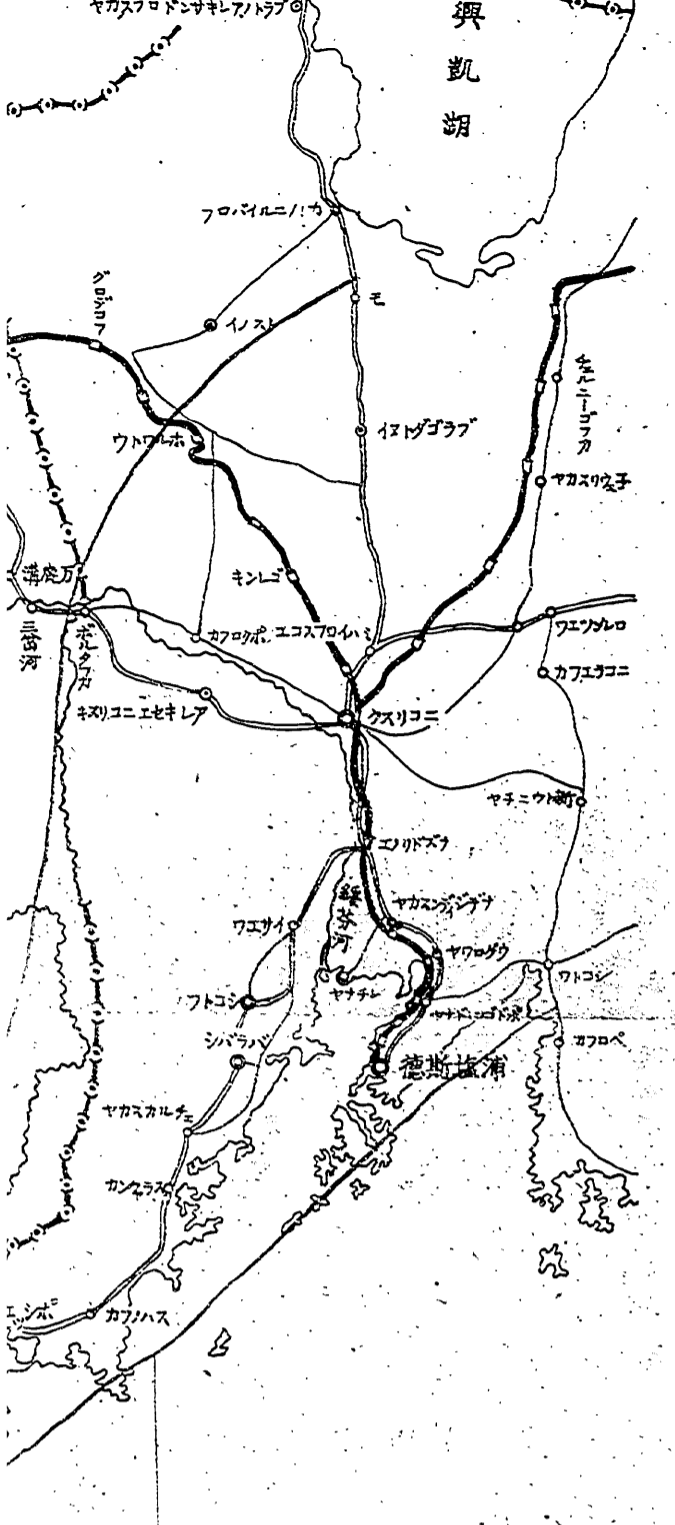
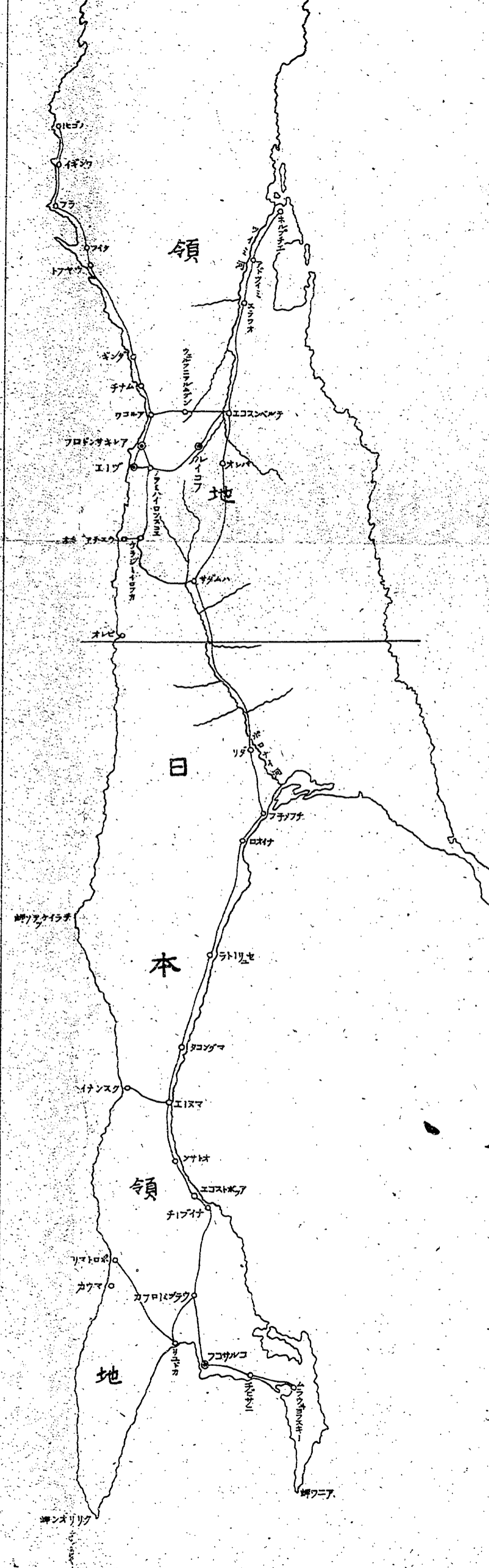


戦 野	
東部	第ニ師團
同	第四師團
同	第七師團
同	第八師團
同	第十師團
同	第十一師團
同	第十二師團
同	第十三師團
同	第十四師團
同	第十五師團
同	第十六師團
同	第十七師團
同	第十八師團
同	第十九師團
同	第二十師團
同	第二十一師團
同	第二十二師團
同	第二十三師團
同	第二十四師團
同	第二十五師團
同	第二十六師團
同	第二十七師團
同	第二十八師團
同	第二十九師團
同	第三十師團

步兵大隊 (三十一)

之配置畧圖

明治三十八年十一月三十日
大本營陸軍參謀部調製



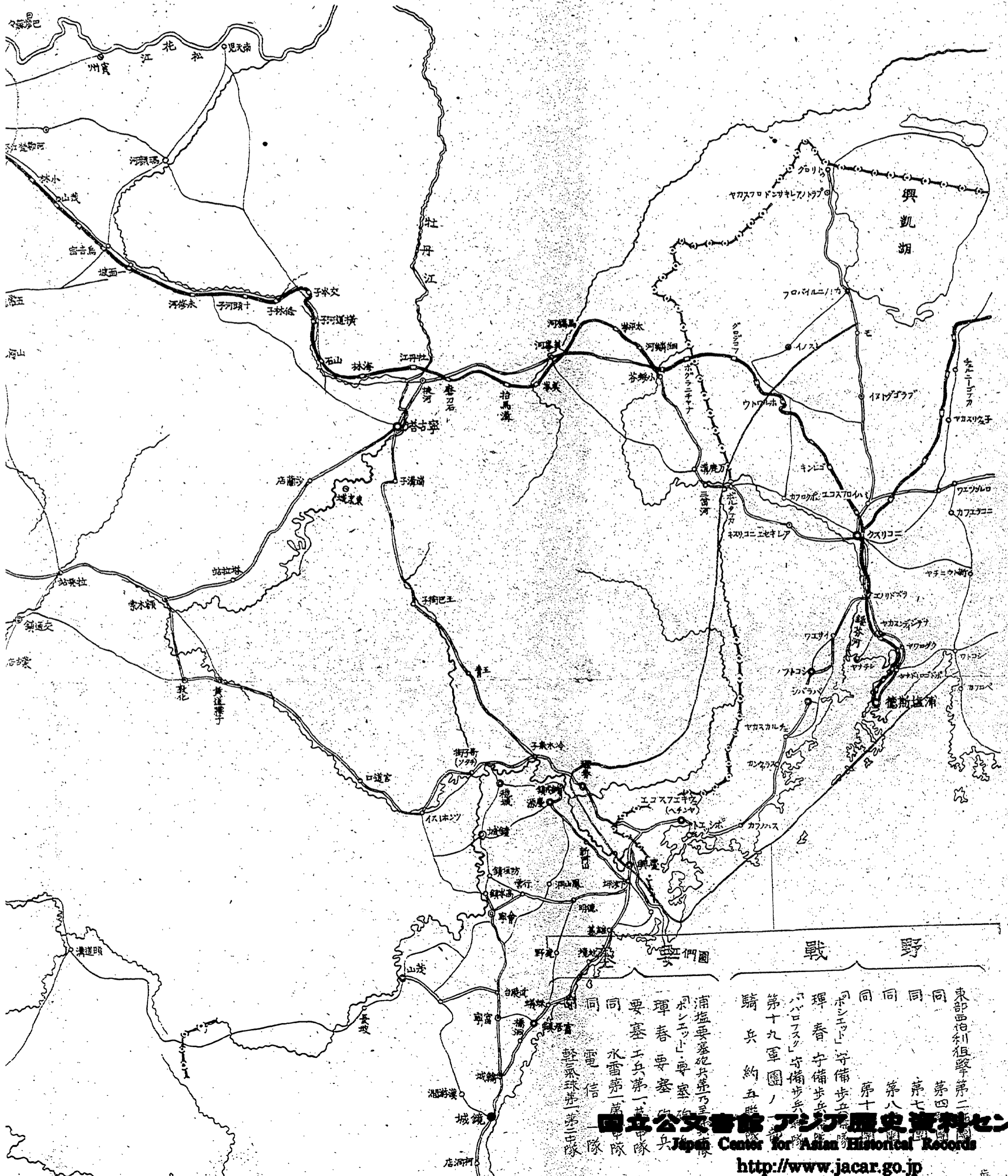
戰野

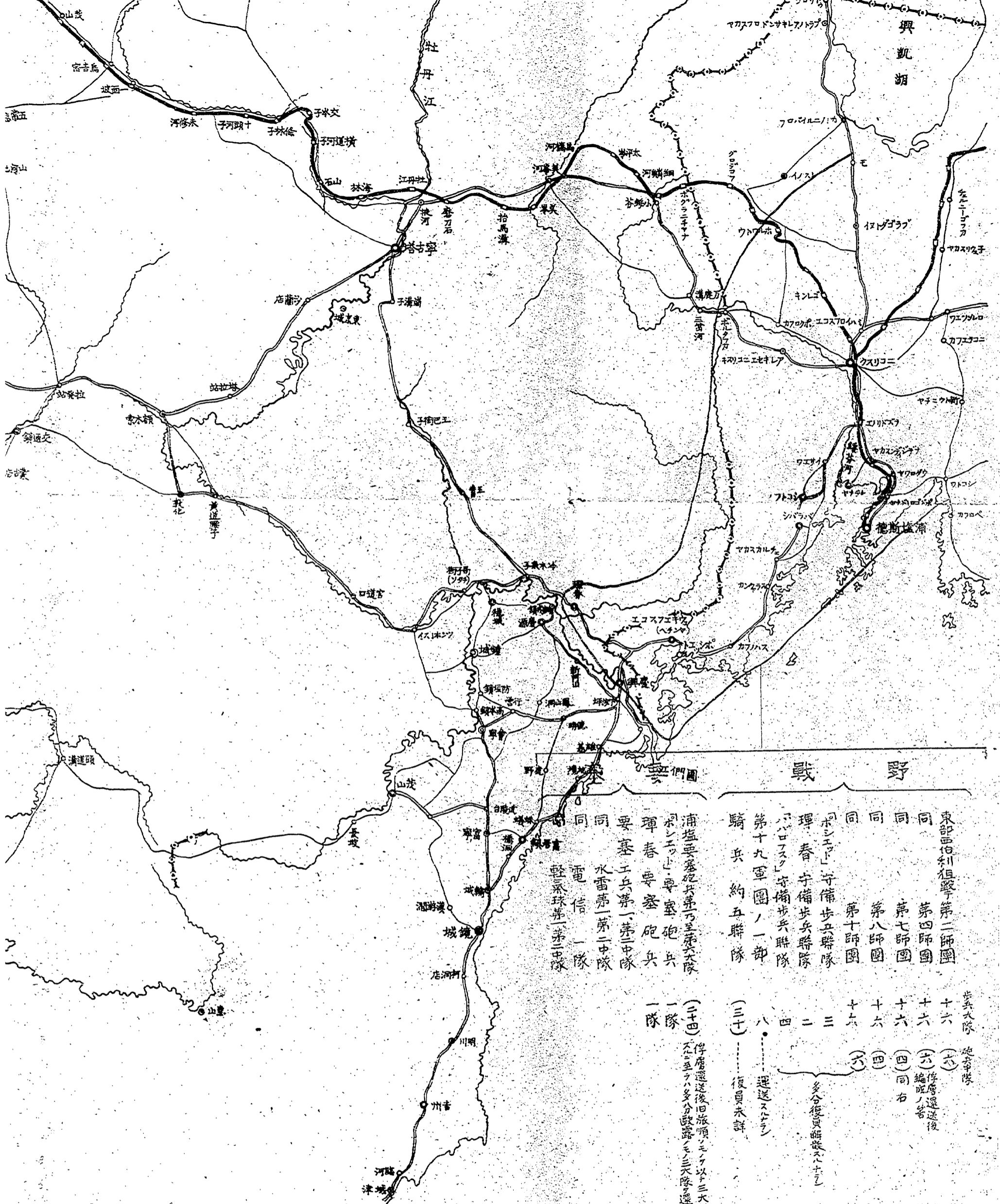
東部田伯利狙撃第二師團	步兵大隊	砲兵大隊
同 第四師團	十六	(六)
同 第七師團	十六	(六) 停送後
同 第八師團	十六	(六) 總隊ノ替
同 第十師團	十六	(四) 同右
ホミエト守備步兵聯隊	三	
璋春守備步兵聯隊	二	
ハムロフス守備步兵聯隊	四	
第十九軍團ノ一部	八	運送中
騎兵約五聯隊	(三十)	復員未詳

多分復員後撤去スル

(三十四) 停送後復員後撤去スルヲ以テ三大隊ヲ編成

烏蘇利及滿洲





戦野

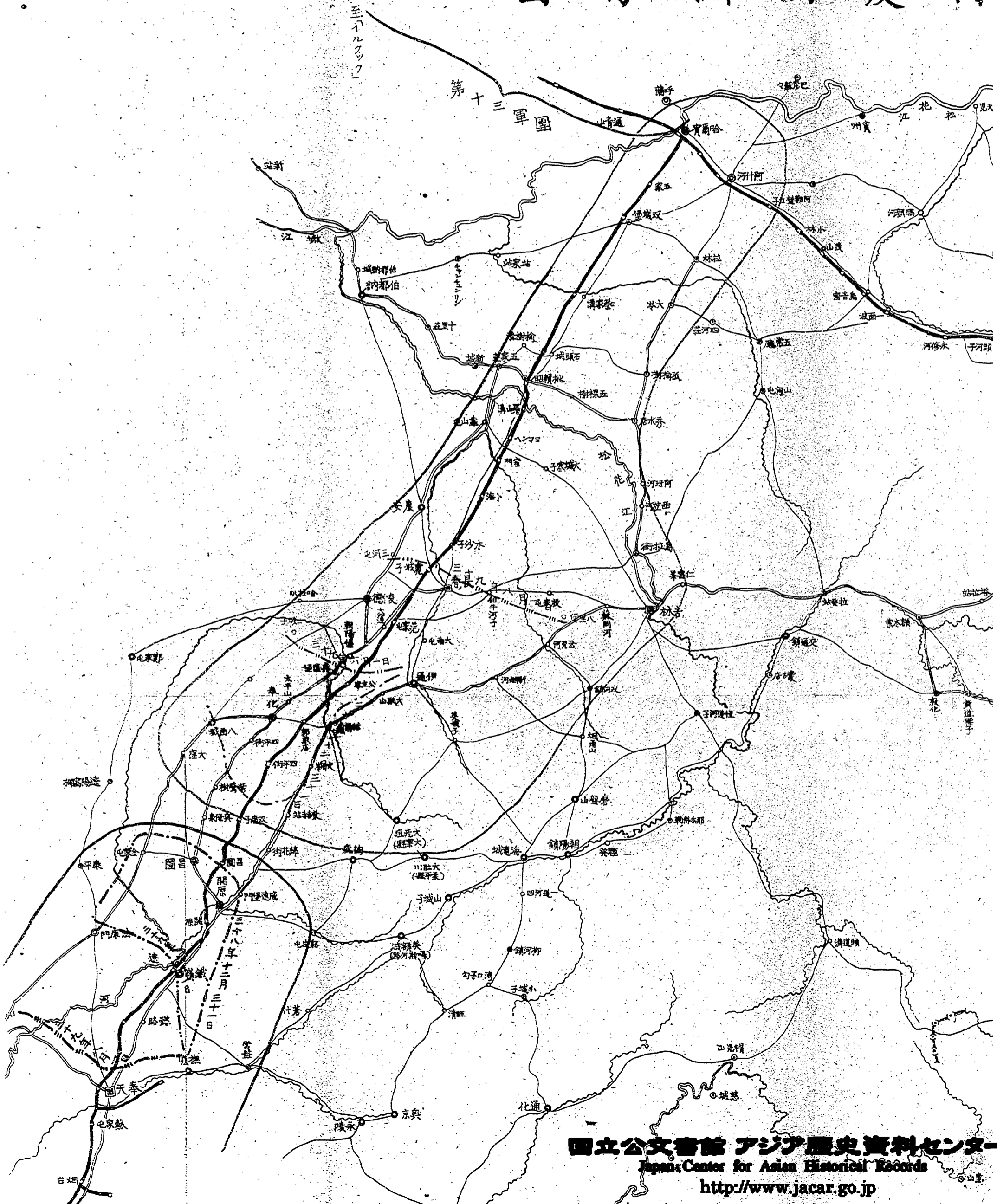
東部留伯利狙撃第二師團	十六	砲兵隊
第四師團	十六	砲兵隊
第七師團	十六	砲兵隊
第八師團	十六	砲兵隊
第十師團	十六	砲兵隊
守備步兵聯隊	三	砲兵隊
守備步兵聯隊	二	砲兵隊
守備步兵聯隊	四	砲兵隊
第十九軍團ノ一部	八	砲兵隊
騎兵約五聯隊	(三十)	砲兵隊

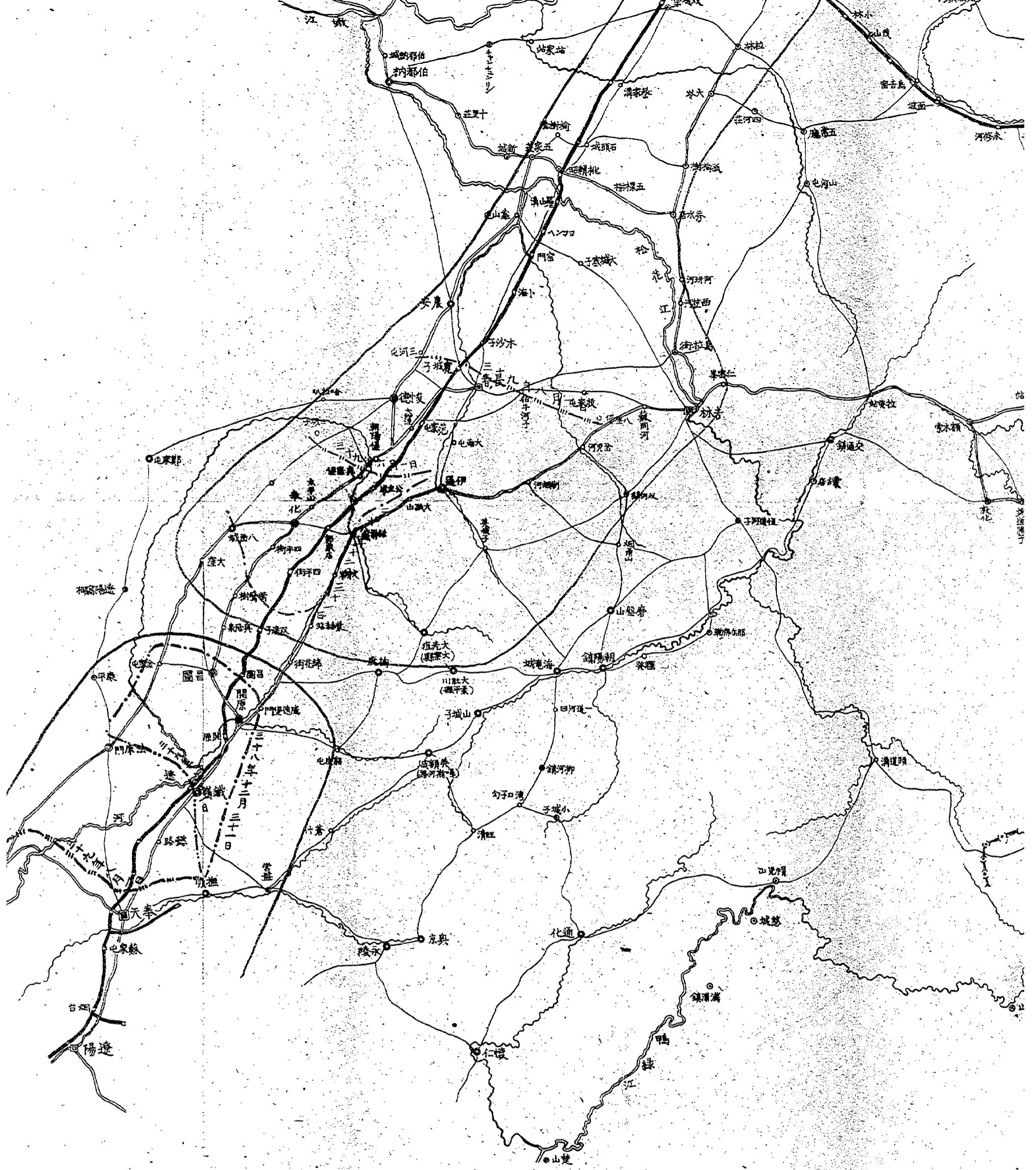
浦塩要塞砲兵第一至第六大隊
 彈藥庫砲兵
 要塞工兵第一第二中隊
 水雷第一第二中隊
 電信一隊
 輕氣球第一第二中隊

(二十四) 俘虜送還後旧旅順ノミヲ以テ三大隊ヲ編成
 一隊
 一隊
 一隊

多分復員歸隊スル

利及滿洲方面





東亞残留ト推定スル部隊

欧露へ還送ト推定スル部隊

西伯利第一軍團 三十二 (十三)
 西伯利第二軍團 三十二 (十一)
 全 第三軍團 三十二 (十三)
 全 第五軍團 三十二 (十二)
 全 第六軍團 三十二 (十二)
 狙撃第一軍團 四十八 (十八)
 全 第二軍團 三十八 (十三)
 復員スヘキ部隊

第一軍團 三十二 (十三)
 第四軍團 三十二 (十三)
 第八軍團 三十二 (十三)
 第九軍團 三十二 (十三)
 第十軍團 三十二 (十三)
 第十三軍團 三十二 (十三)
 第十六軍團 三十二 (十三)
 第十七軍團 三十二 (十三)
 第十九軍團 三十二 (十三)
 西伯利第七軍團 三十二 (十三)
 オシダラノ騎兵第一聯隊 (六)
 鐵楯 遠射砲 (三)

騎兵

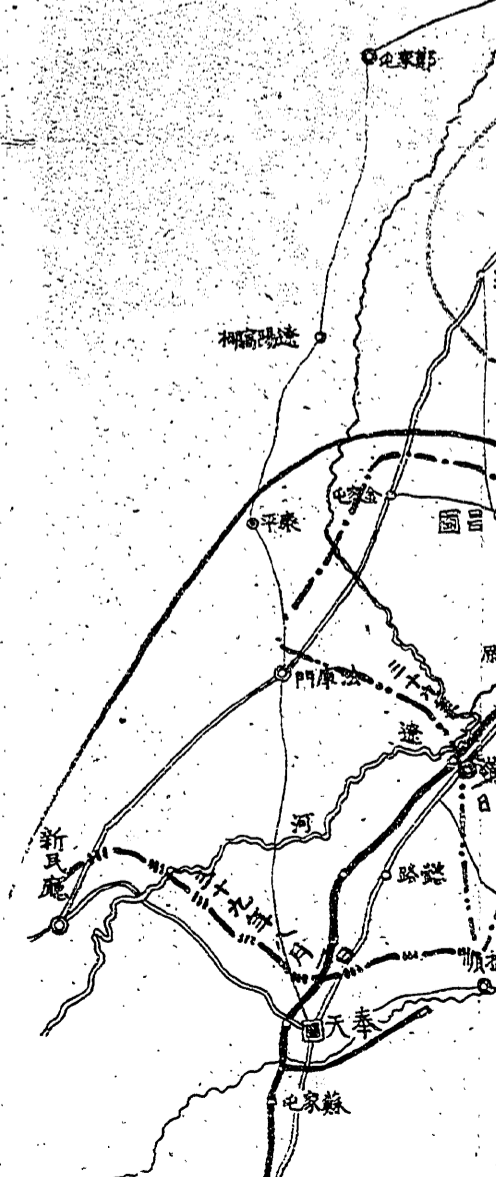
西伯利哥薩克師團 (二十四) (二)
 後貝加爾哥薩克師團 (二十四) (一)
 烏拉爾後貝加爾混成師團 (二十四) (三)
 高加索集成哥薩克師團 (二十四) (三)
 「ドン」哥薩克第四師團 (二十四) (三)
 「オシダラ」哥薩克師團 (二十四) (一)
 高加索騎兵旅團 (十二)
 獨立騎兵第二旅團 (十二)
 騎兵三聯隊ト一大隊 (各名無) (二十一)

砲兵

東部西伯利山砲兵 (八)
 騎山砲兵第一大隊 (三)
 白砲第一第九至第十二大隊 (十)
 東部西伯利攻城砲兵聯隊 (十)

残留還送未詳ノ部隊

考備	兵力						區分	兵種
	計	未詳ノモノ		還送若クハ復員ト推定		残留推定		
		烏蘇利	滿洲	烏蘇利	滿洲			
一本表ニハ野戰隊ノミヲ計算ス 二歩兵一大隊ノ銃數ヲ七百二十、騎兵一中隊ヲ百五十騎、砲兵一中隊ヲ六門ト計算ス	六百九十三大隊 四十九万八千九百全銃			二十七大隊 一万二千二百四十銃	三百五十大隊 二十五万二千銃	八十大隊 五万七千六百銃	二百四十六大隊 十七万七千三百三十銃	歩兵
	二百二十五中隊 三万三千七百全銃	四十中隊 四千五百騎	百八十九中隊 二万八千三百全銃	九百中隊				騎

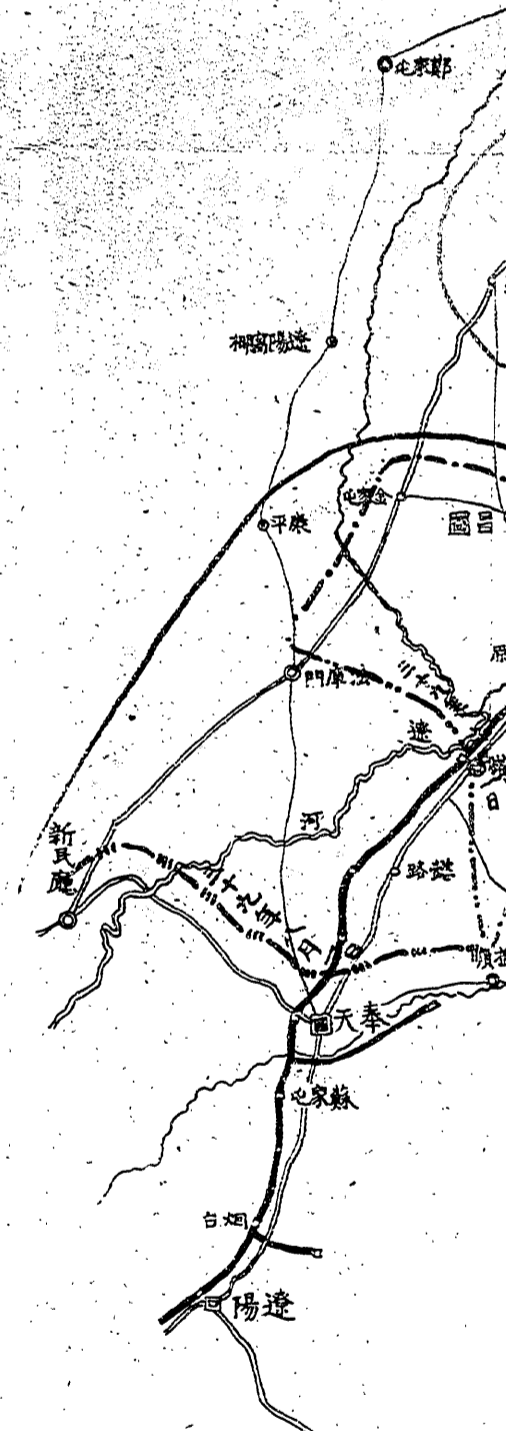


残留ト推定スル部隊

政露へ還送ト推定スル部隊

- 第一軍團 三十二 (十二)
- 第二軍團 三十二 (十一)
- 第三軍團 三十二 (十三)
- 第五軍團 三十二 (十三)
- 第六軍團 三十二 (十三)
- 一軍團 四十八 (十八)
- 二軍團 三十八 (十三)
- 貝スヘキ部隊
- 不四軍團 三十二 (八)
- 豫備歩兵旅団 四
- 克徒歩兵旅団 二
- 殘留還送未詳ノ部隊
- 騎兵中隊 砲兵中隊
- 薩克師團 (二十四) (二)
- 高薩克師團 (二十四) (二)
- 加爾泥成師團 (二十四) (二)
- 哥薩克師團 (二十四) (二)
- 哥薩克師團 (二十四) (二)
- 哥薩克師團 (二十四) (二)
- 哥薩克師團 (二十四) (二)
- 第二旅團 (十二)
- 第一旅團 (十二)
- 一大隊(各名額) (三十一)

- 砲
- 東部西伯利山砲兵 (八)
 - 騎山砲兵第一大隊 (三)
 - 白砲第一第九至第十二大隊 (十)
 - 東部西伯利攻城砲兵聯隊 (十)
- 兵
- 鐵楯速射砲 (三)
 - 西伯利第七軍團 (三十二) (十三)
 - 第十九軍團 (二十四) (十三)
 - 第十七軍團 (三十二) (十三)
 - 第十六軍團 (三十二) (十三)
 - 第十三軍團 (三十二) (十三)
 - 第九軍團 (三十二) (十三)
 - 第八軍團 (三十二) (十三)
 - 第四軍團 (三十二) (十三)
 - 第一軍團 (三十二) (十二)



考備	兵力						區分	兵種	
	計	未詳ノ		還送若クハ復員ト推定		残留ト推定			
		烏蘇利	滿洲	烏蘇利	滿洲	烏蘇利			滿洲
一本表ニハ野戰隊ノミヲ計算ス 二歩兵一大隊ノ銃數ヲ七百二十ノ騎兵一中隊ヲ百五十騎ノ砲兵一中隊ノ八門ノ騎白攻城砲兵 ハ六門ト計算ス	六百九十三大隊 四十九萬八千九百零銃			三百五十大隊 二十五萬二千銃	九六 百中 騎隊		步兵		
	三百二十五中隊 三萬三千七百零騎	三百八十九中隊 二萬八千三百零騎	三十中隊 四千五百騎	九六 百中 騎隊			騎兵		
	二百八十四中隊 二千二百十三門	二十九中隊 二百五十四門		千三百一十一中隊 千零四十七門			砲兵		